

【3P1B201】 ピアノ I		音楽総合学科		1年前期					
2単位		必修		演習					
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴								
資格・制限等	P·P/MTコース必修								
授業内容	エチュード、パロック、古典派の作品を学びながら演奏の基本を確認します。音楽的知識を修得し、演奏技術と表現を身に付けていきます。								
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年								
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。				○			
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。				◎			
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。				◎			
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。				○			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	-	30	30	-	60			
	中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10			
	受講態度	15	-	-	15	30			
	合 計(点)	15	35	35	15	100			
評価の特記事項	実技試験は古典派の作品の演奏を最終試験（前期定期試験）で行います。中間発表（中間試験）はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表（中間試験）、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社（または手持ちのもの）(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし								
参考書・教材	個々に合わせて選択します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業説明 各々が選んだ楽曲を演奏 [課題(準備)] 選んだ曲をレッスンできるように準備しておく (2~3h)								
2	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (1) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心に正確な譜読み [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、各曲1曲ずつ譜読みをする (2~3h)								
3	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)								
4	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (3) 課題の確認、強弱・速度・音楽用語 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する (2~3h)								
5	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (4) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、暗譜に取り組む (2~3h)								
6	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (5) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)								
7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (6) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる (2~3h)								
8	中間発表(中間試験)：調号1つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (1) 試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)] 試験曲の音を再確認する (2~3h)								
9	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)								
10	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける (2~3h)								
11	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する (2~3h)								
12	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、表現力を高める (2~3h)								
13	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようする (2~3h)								
14	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)								
15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品(試験曲) (8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、音楽性を高め仕上げる (2~3h)								
時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】								

受講学生への
メッセージ

レッスン内容を楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。
オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。

【3P1S202】 ピアノ II		音楽総合学科		1年後期		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴	2単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	P·P/MTコース必修					
授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品を取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックを更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。					
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年					
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。				○
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。				◎
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。				◎
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。				○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10
	受講態度	15	-	-	15	30
	合 計(点)	15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験はロマン派の作品の演奏を最終試験（後期定期試験）で行います。中間発表（中間試験）はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして中間発表（中間試験）、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,320円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（1） 休暇中の課題のレッスン、譜読みの確認 [課題(準備・予習)] 課題をレッスンできるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの確認をする（2~3h）					
2	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（2） 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2~3h）					
3	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（3） 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2~3h）					
4	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（4） 課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音楽性を高める（2~3h）					
5	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（5） 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、暗譜に取り組む（2~3h）					
6	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（6） 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2~3h）					
7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（7） 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる（2~3h）					
8	中間発表(中間試験)：調号2つのスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（1） 試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)] 試験曲の音を再確認する（2~3h）					
9	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（2） 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2~3h）					
10	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（3） 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2~3h）					
11	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（4） 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、各曲にふさわしい音色を研究する（2~3h）					
12	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（5） 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、表現力を高める（2~3h）					
13	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（6） 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2~3h）					
14	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（7） 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2~3h）					
15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)（8） 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、音楽的な演奏になるよう仕上げる（2~3h）					
時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を授業外で毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】					

受講学生への
メッセージ

レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。
オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。

【302B201】電子オルガン I		音楽総合学科		1年前期			
2単位		必修		演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	Or·Or/MTコース必修						
授業内容	電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。具体的には、前半で得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半ではその他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多種なジャンルへの演奏対応力を身につけ、新たな得意ジャンルを探索します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
実務家教員	音楽講師・32年						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。				○	
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。				◎	
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。				◎	
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。				○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	20	25	25	-	70	
	準備・課題	5	5	5	-	15	
	受講態度	-	-	-	15	15	
	合 計(点)	25	30	30	15	100	
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだうちの2曲（得意ジャンル1曲／その他ジャンル1曲）の演奏発表で評価します。また、観点別評価項目の「準備・課題」は、毎週の練習の結果で評価します。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。						
テキスト	これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲程度ピックアップし、第1週授業の際に楽譜・レジストデータなどを準備してください。（この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。） その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 【課題(復習)】決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる(2~3h)						
2	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1) 例. 演奏全体へのアドバイス（リズムの感じ方など） 【課題(復習)】全体的にアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
3	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2) 例. 鍵盤タッチ奏法 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. 鍵盤タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
4	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3) 例. エクスプレッションペダル奏法 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
5	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4) 例. まとめのアドバイス 【課題(復習)】アドバイスされた箇所を全体を復習し、演奏に反映する(2~3h)						
6	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目] (1) 例. クラシック 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
7	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目] (2) 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
8	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目] (1) 例. Jazz 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. リズム感）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
9	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目] (2) 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
10	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目] (1) 例. ラテン 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. リズム感）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
11	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目] (2) 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
12	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目] (1) 例. フュージョン／ニューエイジミュージック 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. 2nd Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
13	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目] (2) 【課題(復習)】アドバイスされた箇所（例. ホリゾンタルタッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
14	得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス 【課題(準備)】得意ジャンルのレパートリー曲について、演奏全体を仕上げる(2~3h)						
15	その他ジャンルからの選択曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス 【課題(準備)】その他ジャンルからの選択曲について、演奏全体を仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	・各回における「準備・課題」への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ曲の練習を継続しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						

受講学生への
メッセージ

皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥が深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。
[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【302S202】電子オルガンⅡ		音楽総合学科	1年後期			
2単位		必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生					
資格・制限等	Or·Or/MTコース必修					
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、前半で自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では与えられた課題曲の演奏に取り組みます。どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。					
実務家教員	音楽講師・32年					
授業方法	個人レッスン					
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○	
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。			◎	
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○	
	備考	○・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	20	25	25	-	70
	準備・課題	5	5	5	-	15
	受講態度	-	-	-	15	15
	合 計(点)	25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲1曲/課題曲1曲の演奏発表で、観点別評価項目の「準備・課題」は、毎週の練習の成果で評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。					
テキスト	第1週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲（2曲程度）の楽譜・レジストデータなどを準備してください。その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。					
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	前半で取り組む自由曲の候補曲を確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [課題(復習)]決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2~3h)					
2	自由曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [課題(復習)]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
3	自由曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [課題(復習)]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2~3h)					
4	自由曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [課題(復習)]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
5	自由曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [課題(復習)]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2~3h)					
6	自由曲における演奏追究（5） 曲全体 [課題(復習)]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
7	自由曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [課題(復習)]後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2~3h)					
8	課題曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [課題(復習)]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
9	課題曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [課題(復習)]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2~3h)					
10	課題曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [課題(復習)]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
11	課題曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [課題(復習)]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2~3h)					
12	課題曲における演奏追究（5） 曲全体 [課題(復習)]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)					
13	課題曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [課題(復習)]前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる(2~3h)					
14	自由曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(準備)]自由曲の演奏全体を仕上げ、課題曲も仕上げてくる。(2~3h)					
15	課題曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [課題(準備)]課題曲のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる(2~3h)					
時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を2曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 ・第8週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】					

受講学生への
メッセージ

自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という2つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。魅力的な演奏に仕上げると同時に、皆さんのパートリーを増強していきましょう。
[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【302B205】副科ピアノ I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		必修		演習					
教員	横井 香織								
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修								
授業内容	ピアノ演奏に必要とされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。								
実務家教員	音楽教室講師・10年								
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○				
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎				
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎				
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	-	30	30	-	60			
	受講態度	20	-	-	20	40			
	合 計(点)	20	30	30	20	100			
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。								
ICT活用	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J. S. バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし								
参考書・教材	個々に合わせて選択します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業説明 曲決め [課題(準備)] 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する (1~2h)								
2	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (1) 正確な譜読み [課題(予習)] 各曲 1曲ずつ正確に譜読みをする (1~2h)								
3	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、スマーズに弾けるようにする (1~2h)								
4	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (3) 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、強弱を付ける (1~2h)								
5	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (4) 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する (1~2h)								
6	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (5) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける (1~2h)								
7	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (6) 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする (1~2h)								
8	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (7) 課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、演奏が困難な個所を反復練習し、演奏技術を高める (1~2h)								
9	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (8) 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える (1~2h)								
10	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (9) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、響きのバランスを考える (1~2h)								
11	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (10) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする (1~2h)								
12	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (11) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、暗譜に取り組む (1~2h)								
13	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (12) 学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする (1~2h)								
14	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (13) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、よく弾き込む (1~2h)								
15	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど (14) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、試験に向けて仕上げる (1~2h)								
時間外での学修	授業外で毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】								
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を自ら楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。								

【302S206】副科ピアノⅡ		音楽総合学科		1年後期					
1単位		必修		演習					
教員	横井 香織								
資格・制限等	0r・Or/MTコース必修								
授業内容	前期に修得した基礎を土台とし、個々の目標に合わせた曲目に取り組みます。ピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。								
実務家教員	音楽教室講師・10年								
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○				
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎				
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎				
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	-	30	30	-	60			
	受講態度	20	-	-	20	40			
	合 計(点)	20	30	30	20	100			
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験（後期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。								
I C T 活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J. S. バッハ：インヴェンション・シンフオニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし								
参考書・教材	個々に合わせて選択します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（1）休暇中の課題のレッスン [課題(準備)] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく（1～2h）								
2	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（2）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、譜読みが正確にできているか確認する（1～2h）								
3	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（3）課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h）								
4	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（4）課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、強弱を付ける（1～2h）								
5	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（5）課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、反復練習をしてテクニックをさらに向上する（1～2h）								
6	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（6）課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h）								
7	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（7）課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする（1～2h）								
8	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（8）課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、演奏が困難な個所を反復練習し、演奏技術を高める（1～2h）								
9	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（9）課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える（1～2h）								
10	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（10）課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、響きのバランスを考える（1～2h）								
11	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（11）課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする（1～2h）								
12	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（12）課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜に取り組む（1～2h）								
13	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（13）学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（1～2h）								
14	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（14）課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、よく弾き込む（1～2h）								
15	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネまたはソナタなど（15）課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、試験に向けて仕上げる（1～2h）								
時間外での学修	授業外での毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】								
受講学生へのメッセージ	自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。								

【3P1B205】副科電子オルガン I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		必修		演習					
教員	相原 里美								
資格・制限等	P·P/MTコース必修								
授業内容	電子オルガンの演奏法を学びます。ステージアの基本的な操作を勉強します。又、市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し修得します。								
実務家教員	音楽教室講師・27年								
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。時には、数名で協力しあってデータを入力することもあります。 質問・要望等授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。				○			
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。				○			
	技能	データをいかした演奏力の向上 表情豊かな演奏ができる。				◎			
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。				◎			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	15	15	40	-	70			
	授業態度	-	-	-	15	15			
	課題に対する練習状況	-	-	-	15	15			
	合 計(点)	15	15	40	30	100			
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。 フィードバックとして定期試験実施後に講評を行います。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	個々に合わせて選択します。								
参考書・教材	個々に合わせて選択します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業説明（今後の授業の進め方など） [課題(準備)]電子オルガン演奏の視聴をしてみる(1~2h)								
2	電子オルガンの操作法など、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、電子オルガンに慣れる(1~2h)								
3	電子オルガンの奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ピアノ譜を電子オルガンで弾いてみる(1~2h)								
4	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、各楽器の音域に気を付けながらレジストを組む(1~2h)								
5	強弱(EXP.P)、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、EXP.Pを使用し強弱をつけられるようにする(1~2h)								
6	ベース奏法について、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ベースに慣れる(1~2h)								
7	簡単な3段譜の演奏をしてみる、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ゆっくりなテンポで弾けるようにする(1~2h)								
8	試験に向けての取り組み（1）選曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後に各自譜読みに取り組む(1~2h)								
9	試験に向けての取り組み（2）譜読みの確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、正確に譜読みを行う(1~2h)								
10	試験に向けての取り組み（3）強弱、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、強弱をつけて弾けるようにする(1~2h)								
11	試験に向けての取り組み（4）奏法の研究、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、タッチに気を付けて弾けるようにする(1~2h)								
12	試験に向けての取り組み（5）レジスト分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、タッチを活かし、曲に合った弾き方ができるようにする(1~2h)								
13	試験に向けての取り組み（6）全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、全体の流れを考えながら弾き込む(1~2h)								
14	試験に向けての取り組み（7）暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、暗譜に取り組む(1~2h)								
15	試験に向けての取り組み（8）仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1~2h)								
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】								
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。								

【3P1S206】副科電子オルガンⅡ		音楽総合学科		1年後期					
1単位		必修		演習					
教員	相原 里美								
資格・制限等	P・P/MTコース必修								
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。								
実務家教員	音楽教室講師・27年								
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。 質問・要望等授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。				○			
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。				○			
	技能	データをいかした演奏力の向上。 表情豊かな演奏ができる。				◎			
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。				◎			
	備考	○・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	15	15	40	-	70			
	授業態度	-	-	-	15	15			
	課題に対する練習状況	-	-	-	15	15			
	合 計(点)	15	15	40	30	100			
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。 フィードバックとして定期試験実施後に講評を行います。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	個々に合わせて選択します。								
参考書・教材	個々に合わせて選択します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題(準備)]選曲後、各自譜読みに取り組む(1~2h)								
2	前期の復習、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、次の曲の練習をする(1~2h)								
3	レパートリーを増やす(1) 譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、見落としのないよう正確な譜読みを行う(1~2h)								
4	レパートリーを増やす(2) オルガン奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、曲に合った弾き方ができるようにする(1~2h)								
5	電子オルガンの操作など、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ステージアの機能を使ってみる(1~2h)								
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、各楽器の音域、組み合わせを考えながらレジストを組む(1~2h)								
7	データ分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、入力技術を理解する(1~2h)								
8	小アレンジに挑戦：アレンジ方法、選曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後、各自アレンジに取りかかる(1~2h)								
9	小アレンジに挑戦：取り組み(1) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、アレンジを進める(1~2h)								
10	小アレンジに挑戦：取り組み(2) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、さらにアレンジを進める(1~2h)								
11	試験に向けての取り組み(1) 課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、選曲後に各自譜読みに取り組む(1~2h)								
12	試験に向けての取り組み(2) 譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、正確な譜読みを行う(1~2h)								
13	試験に向けての取り組み(3) 全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、全体の流れを考えながら弾き込む(1~2h)								
14	試験に向けての取り組み(4) 暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、暗譜に取り組む(1~2h)								
15	試験に向けての取り組み(5) 発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1~2h)								
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15~30時間】								
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。								

【3S3S202】 P・Or アンサンブル I		音楽総合学科		1年後期		
教員	横井 香織・相原 里美	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修					
授業内容	ピアノ連弾や2台ピアノ、2台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けています。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。					
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・27年					
授業方法	演習を中心とした1組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。				△
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。				◎
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。				◎
	関心・意欲・態度	パートナーと充分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。				○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	30	30	-	60
	発表	-	5	5	-	10
	受講態度	10	-	-	20	30
	合 計(点)	10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。発表はピアノ、電子オルガンとともに5回目の授業時に行います。フィードバックとして発表と実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
I C T 活用						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (横井)	授業説明（今後の授業の進め方等）、パートナー決め、選曲（ピアノ連弾曲） [課題(準備)] ピアノ連弾の演奏会や動画などで、ピアノ連弾とはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h）					
2 (横井)	ピアノ連弾曲（1）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] 見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h）					
3 (横井)	ピアノ連弾曲（2）課題の確認、合わせ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく（1～2h）					
4 (横井)	ピアノ連弾曲（3）課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）					
5 (横井)	ピアノ連弾曲（4）課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）					
6 (横井)	ピアノ連弾曲（5）発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）					
7 (横井)	ピアノ連弾曲（6）課題の確認、仕上げ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）					
8 (横井)	ピアノ連弾曲試験 [課題(復習)] レッスンの復習をし、試験に向けて弾き込む（1～2h）					
9 (相原)	授業説明（今後の授業の進め方等）、パートナー決め、選曲（2台電子オルガン曲） [課題(準備)] 動画などで2台電子オルガンのアンサンブルとはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h）					
10 (相原)	2台電子オルガン曲（1）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] 見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h）					
11 (相原)	2台電子オルガン曲（2）課題の確認、合わせ 課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく（1～2h）					
12 (相原)	2台電子オルガン曲（3）課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）					
13 (相原)	2台電子オルガン曲（4）課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）					
14 (相原)	2台電子オルガン曲（5）発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）					
15 (相原)	2台電子オルガン曲（6）課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら試験に向けて弾き込む（1～2h）					
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】					

受講学生への
メッセージ

一人でも授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。
オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3S3S201】伴奏法(P)		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	横井 香織								
資格・制限等	特になし								
授業内容	伴奏法として誰もが思い浮かぶことの一つに、メロディよりも控えめに演奏するということが挙げられるでしょう。しかし、それだけでは十分ではないことも周知のことです。この授業では、主に歌曲を用いて伴奏法を学修しますが、伴奏譜を弾くだけではなく、メロディの歌詞の理解、呼吸、フレージング、構成などを深く理解することが大切であり、その理解が楽曲にふさわしい音楽表現に繋がると考えられます。これらを理解するために効果的な弾き歌いも学修し、また様々な場面に対応するために、コードネーム付きメロディ譜の伴奏付けも学修します。								
実務家教員	音楽教室講師・10年								
授業方法	演習を中心として、一人ずつ演奏・指導します。伴奏法の知識と技術を身に付けるために、発表も含めて授業を開催していきます。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付け、理解することができる。			<input type="radio"/>				
	思考・判断・表現	楽曲を深く研究して理解し、ふさわしい演奏表現をすることができる。			<input checked="" type="radio"/>				
	技能	適切な呼吸、フレージング、メロディとのバランスを考えた伴奏ができる。			<input checked="" type="radio"/>				
	関心・意欲・態度	伴奏者としてのコミュニケーション力や協調性を養いながら、積極的に学修することができる。			<input type="radio"/>				
	備考	<input checked="" type="radio"/> ・ <input type="radio"/> ・ <input checked="" type="radio"/> の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	-	30	30	-	60			
	楽譜作成	20	-	-	-	20			
	受講態度	-	-	-	20	20			
	合 計(点)	20	30	30	20	100			
評価の特記事項	実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。楽譜作成は実技試験で演奏する曲のうちの、コードネーム付きメロディの伴奏譜を作成し提出してもらいます。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。								
I C T 活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『コンコーネ50番 中声用』全音楽譜出版社(1,100円) ISBN:978-4-11-711420-1								
参考書・教材	その都度提示します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ガイダンス 授業の進め方について・伴奏について 弾き歌い（1）メロディの把握、伴奏の譜読み [課題(準備)] ピアノ伴奏のある演奏会や動画等で、伴奏とはどのようなものか観ておく（1～2h）								
2	弾き歌い（2）伴奏の確認、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、スムーズに弾けるようにしておく（1～2h）								
3	弾き歌い（3）メロディと伴奏の確認、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディを歌いながら伴奏を付けて弾き歌いができるようにしておく（1～2h）								
4	弾き歌い（4）プレス・フレージング・バランス、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディとともにプレスを取り、フレージング、バランスを考える（1～2h）								
5	発表 歌曲伴奏（1）メロディと伴奏の把握 [課題(予習)] メロディと伴奏を弾けるようにしておく（1～2h）								
6	歌曲伴奏（2）弾き歌い [課題(予習)] 授業の復習をし、メロディを歌いながら伴奏を付けて弾き歌いができるようにしておく（1～2h）								
7	歌曲伴奏（3）プレス・フレージング・バランス、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディとともにプレスを取り、フレージング、バランスを考える（1～2h）								
8	歌曲伴奏（4）曲想・音楽表現、仕上げ、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、楽曲にふさわしい曲想・表現を考える（1～2h）								
9	発表 コードネーム付きメロディ（1）コードネームについて、片手伴奏・両手伴奏について [課題(予習)] コードネームの知識を修得し、譜読みをしておく（1～2h）								
10	コードネーム付きメロディ（2）伴奏の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディにふさわしい伴奏を付ける（1～2h）								
11	コードネーム付きメロディ（3）曲想・音楽表現、仕上げ、課題の確認 [課題(予習・復習)] 楽曲にふさわしい音楽表現ができるようにする（1～2h）								
12	発表 試験曲（1）譜読み・コード付け、課題の確認 [課題(予習)] 正確な譜読み、コード付けをしておく（1～2h）								
13	試験曲（2）テクニックの向上、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、スムーズに弾けるようにする（1～2h）								
14	試験曲（3）プレス、音楽表現、課題の確認 [課題(予習・復習)] 授業の復習をし、メロディのプレスに合わせて弾けるようにし、楽曲にふさわしい音楽表現を考える（1～2h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
15	試験曲（4）仕上げ、課題の確認 【課題（復習）】授業の復習をし、メロディとのバランス、曲想などを再確認する（1～2h）
時間外での学修	伴奏法の知識と技術を修得するために、授業外でも歌曲や器楽曲の演奏会に出掛けたり、音源を聴くなどで、積極的にメロディと伴奏のバランス、伴奏の理解に努めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】
受講学生へのメッセージ	伴奏によって楽曲の完成度が違ってきます。演奏技術や表現力を磨き、伴奏に活かしてください。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。

【302B209】サウンドメイク I		音楽総合学科		1年前期			
1単位		選択		演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。前期は、具体的には、電子オルガンの操作習得／電子音の仕組み理解／エフェクトの知識学修／リズムの打ち込み制作などに取り組みます。						
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・16年／楽器店 音楽講師・12年						
授業方法	<p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> 種々の表現手法について紙面上で知識を学修し、それを電子オルガン上で再現していきます。 電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。 						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。					
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。					
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。					
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度		
	筆記試験	20	10	-	-		
	実技試験	15	20	15	-		
	受講態度	-	-	-	20		
	合 計(点)	35	30	15	20		
評価の特記事項	筆記試験は、修得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。						
I C T 活用							
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で紹介しコメントします。						
テキスト	なし						
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介～電子オルガンの操作習得（1）パネル上のボタン配置の把握 【課題(復習)】パネル上のボタンの操作・知識を復習する（1h）						
2	電子オルガンの操作習得（2）ディスプレイセレクトについて 【課題(復習)】ディスプレイセレクトの操作・知識を復習する（1h）						
3	電子オルガンの操作習得（3）各種の詳細設定画面の概要把握 【課題(復習)】各種の詳細設定画面の操作・知識を復習する（1h）						
4	電子オルガンの知識（1）音源について 【課題(復習)】音源について知識を復習する（1h）						
5	電子オルガンの操作習得（4）ボイスのセレクト～ボイスコンディションについて 【課題(復習)】ボイスのセレクト～ボイスコンディションの操作・知識を復習する（1h）						
6	電子オルガンの操作習得（5）リズムの基本操作 【課題(復習)】リズムの操作・知識を復習する（1h）						
7	電子オルガンの知識（2）RPPの仕組みについて 【課題(復習)】RPPの仕組みについて知識を復習する（1h）						
8～10	電子オルガンの操作習得（6）リズムパターンの作成 【課題(復習)】リズムパターン作成の操作・知識を復習する（1h）						
11	電子オルガンの知識（3）エフェクトについて：空間系・モジュレーション系 【課題(復習)】空間系・モジュレーション系エフェクトの知識を復習する（1h）						
12	電子オルガンの知識（4）エフェクトについて：歪み系・ダイナミクス系・その他 【課題(復習)】歪み系・ダイナミクス系・その他のエフェクトの知識を復習する（1h）						
13	電子オルガンの知識（5）ボイスエディットについて 【課題(復習)】ボイスエディットについて知識を復習する（1h）						
14	電子オルガンの操作習得（7）ボイスエディットの活用cc 【課題(復習)】ボイスエディット活用の操作・知識を復習する（1h）						
15	前期で習得した事項を活かしたトータル制作 授業時間外の課題も活かして取り組む 【課題(他)】実技試験に向けた制作練習（1h）						
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんのが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 【オフィスアワー】当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【302S210】サウンドメイクII		音楽総合学科		1年後期					
1単位		選択		演習					
教員	松井 宏行								
資格・制限等	0r・Or/MTコース必修								
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。後期は、具体的には、オーケストラ系/ポピュラー系などのジャンルごとに楽曲例を取り上げ、精巧なサウンドメイク(音作り)に取り組みます。								
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・16年／楽器店 音楽講師・12年								
授業方法	<p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> 種々の表現手法について紙面上で知識を学修し、それを電子オルガン上で再現していきます。 電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。 								
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。							
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。							
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。							
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。							
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度				
	筆記試験	20	10	-	-				
	実技試験	15	20	15	-				
	受講態度	-	-	-	20				
	合 計(点)	35	30	15	20				
評価の特記事項	筆記試験は、修得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。								
I C T 活用									
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で紹介しコメントします。								
テキスト	なし								
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配布								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業の概要紹介～精巧なサウンドメイク(1)電子オルガンにおける効果的な音作りについて 【課題(復習)】効果的な音作りについて知識を復習する (1h)								
2	精巧なサウンドメイク(2)音作りのポイントについて 【課題(復習)】音作りのポイントについて知識を復習する (1h)								
3	様々な楽器と奏法(1)アコースティック楽器を知る:管楽器 【課題(復習)】管楽器について知識を復習する (1h)								
4	様々な楽器と奏法(2)アコースティック楽器を知る:弦楽器・打楽器 【課題(復習)】弦楽器・打楽器について知識を復習する (1h)								
5	オーケストラ系のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ 【課題(復習)】ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)								
6	オーケストラ系のサウンドメイク(2)リズム制作 【課題(復習)】リズム制作の操作・知識を復習する (1h)								
7	オーケストラ系のサウンドメイク(3)制作実習 【課題(復習)】ここまで操作・知識を復習する (1h)								
8	ポピュラー系のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ 【課題(復習)】ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)								
9	ポピュラー系のサウンドメイク(2)リズム制作 【課題(復習)】リズム制作の操作・知識を復習する (1h)								
10	ポピュラー系のサウンドメイク(3)制作実習 【課題(復習)】ここまで操作・知識を復習する (1h)								
11	任意楽曲のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ 授業時間外の課題も活かして取り組む 【課題(復習)】ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (1h)								
12	任意楽曲のサウンドメイク(2)リズム制作 【課題(復習)】リズム制作の操作・知識を復習する (1h)								
13	任意楽曲のサウンドメイク(3)仕上げ 【課題(復習)】ここまで操作・知識を復習する (1h)								
14	サウンドメイクの周辺知識(1)PAについて 【課題(復習)】PAについて知識を復習する (1h)								
15	サウンドメイクの周辺知識(2)DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について 【課題(復習)】DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について知識を復習する (1h)								
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】								
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれません、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 【オフィスアワー】当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度								

【3S4B201】グレード対策A(ピアノ)I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	上園 弥生								
資格・制限等	特になし								
授業内容	ヤマハの演奏グレードの項目の実習、主に、即興演奏、初見演奏の実習。 指導グレードのコード進行法について、学びます。								
実務家教員	グレード試験官・27年、音楽講師・32年								
授業方法	グループレッスンですが、各々のレベルに合わせて個別指導もおこないます。								
到達目標	知識・理解	コード進行、変奏の方法を理解し、まとめられる。			<input type="radio"/>				
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			<input type="radio"/>				
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			<input checked="" type="radio"/>				
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			<input checked="" type="radio"/>				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	15	15	40	-	70			
	受講態度	-	-	-	15	15			
	課題に対する練習状況	-	-	-	15	15			
	合 計(点)	15	15	40	30	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後、講評を行います。								
テキスト									
参考書・教材	授業開始後提示します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ガイダンス ヤマハのグレードについて、即興演奏について説明。 [課題] (復習、準備) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
2	バスの進行について [課題] (復習) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
3	コードネームについて [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
4	伴奏形について [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
5	変奏の仕方について [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
6	曲の構成について [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
7	まとめ方 [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
8	重音奏について [課題] (準備、復習、) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
9	モティーフ即興について [課題] (準備、復習) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
10	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題] (準備、復習) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
11	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
12	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
13	実習 授業外の課題を参考にする。 [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
14	実習 試験に向けての取り組み [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
15	実習 試験に向けての取り組み [課題] (復習、他) 学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
時間外での学修	学習した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]								
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的にとりくみましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。								

【3S4S202】グレード対策A(ピアノ)II		音楽総合学科		1年後期					
1単位		選択		演習					
教員	上園 弥生								
資格・制限等	特になし								
授業内容	引き続き、即興演奏の基礎から応用まで、コード進行法について、個々のレベルに合わせて勉強します。変奏の定着と演奏表現を学びます。初見演奏のポイントを理解し練習します。								
実務家教員	グレード試験官・27年、音楽講師・32年								
授業方法	グループレッスンですが、個別にも一人一人のレベルに合わせて指導します。								
到達目標	知識・理解	変奏の方法と、コード進行を理解し、まとめられる。			<input type="radio"/>				
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			<input type="radio"/>				
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			<input checked="" type="radio"/>				
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			<input checked="" type="radio"/>				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	15	15	40	-	70			
	受講態度	-	-	-	15	15			
	課題に対する練習状況	-	-	-	15	15			
	合 計(点)	15	15	40	30	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後、講評を行います。								
テキスト	ありません。								
参考書・教材	そのつど提示します。								
実施回	授業内容・目標					内容			
1	前期の復習と確認 カデンツ、コードネームについて [課題](準備、復習)学んだ事を理解し復習する。課題に取り組む。(1~2h)								
2	伴奏付け 変奏の仕方について 確認 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
3	バス進行について 確認 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
4	もりあげ方について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
5	クライマックスをどこにおくか [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
6	モティーフ即興実習 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
7	Bの和音進行について [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
8	形式について 色々な拍子におけるまとめ方 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
9	モティーフの発展の仕方について コード進行について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
10	和音進行と配置について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
11	まとめ方について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
12	即興演奏A課題実習(試験に向けて) 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)この学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
13	即興演奏B課題実習(試験に向けて) 授業外の課題を参考にする。 [課題](準備、復習)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
14	初見演奏の予見について [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
15	初見演奏実習 授業外の課題を参考にする。 [課題](復習、他)学習した事を復習し、練習する。(1~2h)								
時間外での学修	学習した事を毎日繰り返し練習しましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要となる内容ですので、(標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]								
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。								

【3S4B205】グレード対策A(電子オルガン) I		音楽総合学科		1年前期			
教員	石原 朱実	1単位		選択	演習		
資格・制限等	特になし						
授業内容	演奏グレード即興A、Bモチーフ即興 5級程度の課題演習 基礎編（オルタネートベース、カウンター奏、メロディフェイク、ロック奏）						
実務家教員							
授業方法	テキストの項目順に基礎作りのためのトレーニング、カデンツ、スケールetc. # 3つまでコードパターントレーニングを個々のレベルに応じて指導する。						
到達目標	知識・理解	即興演奏とは何かを理解する。 音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる。 即興A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる。				○	
	思考・判断・表現	与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする。				○	
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。				◎	
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。				◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	20	20	20	10	70	
	受講態度（課題消化）	-	-	10	20	30	
	合 計(点)	20	20	30	30	100	
評価の特記事項							
I C T活用							
課題に対するフィードバック	実技試験後に講評を述べる						
テキスト	『エレクトーン即興演奏法基礎編』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,404円)ISBN:4636134877						
参考書・教材	その他はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	即興演奏とは何か A新曲課題 Bモチーフ即興 [課題（復習）] 即興演奏とは何かをしっかりと理解して課題に取り組む (1~2h)						
2	即興における基礎トレーニング、コードネーム、カデンツ、スケール等を個別に確認 [課題（復習）] コードネーム、カデンツ、スケールなど基礎トレーニングをこなし定着させる (1~2h)						
3	オルタネーティングベースについて I→V 7 I→II 7→V 7 I→IV→V 7 基本的ライン等個別に説明し、実演。 [課題（復習）] オルタネーティングベースを復習し定着させる(1~2h)						
4	コードパターンによる演習 [課題（復習）] 学んだ内容を活かして課題演習する(1~2h)						
5	カウンターラインとは？ 指導筆記グレードとの共通性について [課題（復習）] カウンターラインを復習し定着させる(1~2h)						
6	コードパターンによる演習 [課題（復習）] 今まで学んだ内容を定着させる(1~2h)						
7	即興A新曲演奏：形式、構造、リズムの捉え方 [課題（復習）] 形式、構造、リズムの捉え方をしっかりと理解して即興演奏に繋げる (1~2h)						
8	リズムパターンの説明：ラテン（ビギン、ルンバ）スwing、ロック（8, 16ビート）ワルツ [課題（復習）] 各リズムパターンを復習し、定着させる(1~2h)						
9	既成曲をコピーして渡し、それを演奏する [課題（復習）] 今まで学んだ内容をしっかりと復習して演習課題に取り組む(1~2h)						
10	メロディフェイクについて [課題（復習）] メロディフェイクを演習する(1~2h)						
11	課題による演習 [課題（復習）] 今まで学んだ内容の復習と演習(1~2h)						
12	ロック奏とは？ メロディにその他のパートを付ける方法 [課題（復習）] ロック奏の復習(1~2h)						
13	課題による演習 [課題（復習）] 今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1~2h)						
14	課題による演習 [課題（復習）] 今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1~2h)						
15	即興A新曲演奏のまとめ、個人チェック [課題（復習）] 即興演奏に習熟する(1~2h)						
時間外での学修	多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏する中でフィーリングを培っていく。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間]						
受講学生へのメッセージ	ひたすら粘り強く、着実に練習してください。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【3S4S206】グレード対策A(電子オルガン) II		音楽総合学科	1年後期				
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
授業内容	即興演奏A：前期に学んだ基礎の確認と応用 即興演奏B：モチーフ即興の演習と5級程度の課題実習						
実務家教員							
授業方法	前期に学んだスケール、カデンツ、コード進行の基礎確認と演奏グレード5級実技試験問題集の実習・発表						
到達目標	知識・理解	即興演奏を通じて楽曲構成と和声進行、リズム etc. を理解し、内容を即座に捉え演奏できるようにする。			○		
	思考・判断・表現	演奏グレード5級程度の課題に、音楽として曲想、表現力をつけることができる。			○		
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。			◎		
	備考	○・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	20	20	20	10	70	
	受講態度	-	-	10	20	30	
	合 計(点)	20	20	30	30	100	
評価の特記事項							
ICT活用							
課題に対するフィードバック	実技試験後に、講評を述べる。						
テキスト	『エレクトーン演奏グレード5級 試験問題一覧2013～2015年』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,080円) ISBN:9784864617185						
参考書・教材	コピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期で学んだ基礎項目（オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定）の確認 [課題（復習）]オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定などの項目を復習し定着させる（1～2h）						
2	モチーフ即興について 曲の構成・2部3部形式 [課題（復習）]モチーフ即興の曲の構成を復習する（1～2h）						
3	2小節程度のモチーフの発展の仕方 [課題（復習）]モチーフの発展の仕方を復習し、演習する（1～2h）						
4	反復進行、ゼクエンツについて [課題（復習・発展）]反復進行、ゼクエンツを理解し、即興に活かす（1～2h）						
5	メロディーの反復とコード進行の反復について [課題（復習）]反復を復習、理解し、定着させる（1～2h）						
6	サビのメロディーの作り方とコードパターンの説明 [課題（復習・発展）]サビのメロディーの作り方とコードパターンを復習し、それを活かした即興演習をする（1～2h）						
7	課題の演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習と演習（1～2h）						
8	課題の演習 [課題（復習）]課題演習に取り組む（1～2h）						
9	個人チェック 前もって与えられた課題を発表 [課題（復習）]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む（1～2h）						
10	過去の問題集より実習 [課題（復習）]学んだ内容の復習と演習（1～2h）						
11	初見演奏とは [課題（復習）]初見演奏の課題をこなす（1～2h）						
12	課題の演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習と課題の演習（1～2h）						
13	即興A 新曲演奏のまとめ [課題（復習）]今まで学んだ内容を復習し、即興演奏の課題に取り組む（1～2h）						
14	即興B モチーフ即興のまとめ [課題（復習）]即興の内容を理解定着させ、演習に取り組む（1～2h）						
15	実際の試験と同様、緊張感の中での即興演奏 [課題（復習）]今まで学んだ内容の総復習（1～2h）						
時間外での学修	前期と同じく、多くの音楽を聞き、その曲の構成・和声進行をアナリーゼし、即興演奏に応用できるようになる。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間数：15～30時間】						
受講学生へのメッセージ	# ♯ 3つまでの長短調スケール・カデンツは確実にできること。 オフィスアワーは非常に勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【3S4B209】グレード対策B I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	横井 香織								
資格・制限等	特になし								
授業内容	音程、調性、音階、和音記号、コードネームなどの基礎知識を修得し、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー＆ベース、コード＆ベースなどの伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの課題である音楽理論問題と聴音を学修します。質問等は授業時に受け付けます。								
実務家教員									
授業方法	演習を中心として、音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を開いています。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	音程、調性、音階、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができる。				○			
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる。				◎			
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。				○			
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。				○			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	筆記試験	20	-	20	-	40			
	実技試験	-	40	-	-	40			
	受講態度	-	-	-	20	20			
	合 計(点)	20	40	20	20	100			
評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『音楽用語ハンドブック(改訂新版)』カワイ出版(1,870円)ISBN:978-4-7609-5022-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,750円)ISBN:978-4-7609-7542-6 『キーボードトレーニングA』カワイ出版(1,540円)ISBN:978-4-7609-7477-1								
参考書・教材	必要に応じて配布します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業説明 音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて① 【課題(準備)】これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する。(1h~2h)								
2	音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて②／音楽用語（1）【あ】～【い】／楽語 (1) P.142～P.143／音階／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解し、音楽用語・楽語を覚え、音階について理解をする(1h~2h)								
3	伴奏付け：固有和音I・IV・V（1）／音楽用語（2）【う】～【お】／楽語（2）P.143～P.144／和音／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、I・IV・Vの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、和音について理解する(1h~2h)								
4	伴奏付け：固有和音I・IV・V（2）／音楽用語（3）【お】～【き】／楽語（3）P.144～P.145／音階と和音／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、I・IV・Vの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、音階と和音について理解する(1h~2h)								
5	伴奏付け：固有和音I・IV・V（3）／音楽用語（4）【く】～【し】／楽語（4）P.145～P.146／コードネーム（1）3和音①／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、I・IV・Vの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								
6	伴奏付け：固有和音VI・II・III（1）／音楽用語（5）【し】～【そ】／楽語（5）P.146～P.147／コードネーム（2）3和音②／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、VI・II・IIIの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								
7	伴奏付け：固有和音VI・II・III（2）／音楽用語（6）【そ】～【つ】／楽語（6）P.148／コードネーム（3）7の和音①／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、VI・II・IIIの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								
8	伴奏付け：固有和音VI・II・III（3）／音楽用語（7）【て】～【は】／楽語（7）P.149／コードネーム（4）7の和音②／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、VI・II・IIIの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								
9	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（1）／音楽用語（8）【は】～【ふ】／楽語（8）P.150～P.151／コードネーム（5）その他の4和音①／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								
10	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（2）／音楽用語（9）【へ】～【ろ】／楽語（9）P.151～P.152／コードネーム（6）その他の4和音②／聴音／課題の確認 【課題(復習)】学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する(1h~2h)								

内容	
実施回	授業内容・目標
11	伴奏付け：借用和音 ドッペルドミナント（3）／音楽用語（10）復習①／楽語（10）復習①／楽典問題（1）音程の確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、音程について確実に理解する（1h～2h）
12	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（1）／音楽用語（11）復習②／楽語（11）復習②／楽典問題（2）コードネームの確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、コードネームについて確実に理解する（1h～2h）
13	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（2）／音楽用語（12）復習③／楽語（12）復習③／楽典問題（3）和音記号の確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、和音記号について確実に理解する（1h～2h）
14	伴奏付け：その他の借用和音 副属七の和音（3）／音楽用語（13）復習④／楽語（13）復習④／楽典問題（4）音階の確認／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の伴奏付けができるようにし、音楽用語・楽語を確実に覚え、音階について確実に理解する（1h～2h）
15	伴奏付け：まとめ・受験対策／音楽用語（14）復習⑤／楽語（14）復習⑤／楽典問題（5）総合問題／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 前期に学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、受験に向けて準備をする（1h～2h）
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からることは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。

【3S4S210】グレード対策B II		音楽総合学科		1年後期					
1単位		選択		演習					
教員	横井 香織								
資格・制限等	特になし								
授業内容	前期の内容に加え、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析と聴音を学修します。								
実務家教員									
授業方法	演習を中心として、音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。								
到達目標	知識・理解	音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を理解することができる。				○			
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる。				◎			
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。				○			
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる				○			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	筆記試験	20	-	20	-	40			
	実技試験	-	40	-	-	40			
	受講態度	-	-	-	20	20			
	合 計(点)	20	40	20	20	100			
評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。								
テキスト	『音楽用語ハンドブック改訂新版』カワイ出版(1,870円)ISBN:978-4-7609-5022-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,750円)ISBN:978-4-7609-7542-6 『キーボードトレーニング集B』カワイ出版(1,540円)ISBN:978-4-7609-7478-8								
参考書・教材	必要に応じて配布します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	伴奏付け：前期の復習 転回形によるベース（1）I・IIの第1転回形／曲種（1）【あ】～【お】／作品と作曲家（1）組曲①／コード・調判定・移調（1）／楽曲分析（1）楽曲形式を生み出す諸要素／聴音 [課題(復習)] 前期に学修した内容を復習し、I・IIの第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
2	伴奏付け：転回形によるベース（2）I～IVの第2転回形－I、IVの第2転回形→Vの第1転回形／曲種（2）【か】～【く】／作品と作曲家（2）組曲②／コード・調判定・移調（2）／楽曲分析（2）器楽の諸形式／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、I～IVの第2転回形－I、IVの第2転回形→Vの第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
3	伴奏付け：転回形によるベース（3）IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形／曲種（3）【け】～【さ】／作品と作曲家（3）組曲③／コード・調判定・移調（3）／楽曲分析（3）終止について／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
4	伴奏付け：固有和音／曲種（4）【し】～【つ】／作品と作曲家（4）歌劇曲①／コード・調判定・移調（4）／楽曲分析（4）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、固有和音の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
5	伴奏付け：借用和音（1）ドッペルドミナント、IIの第1転回形／曲種（5）【て】～【は】／作品と作曲家（5）歌劇曲②／コード・調判定・移調（5）／楽曲分析（5）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナント、IIの第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
6	伴奏付け：借用和音（2）IVマイナー、IVマイナーの第2転回形／曲種（6）【ふ】～【ま】／作品と作曲家（6）歌劇曲③／コード・調判定・移調（6）／楽曲分析（6）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、IVマイナー、IVマイナーの第2転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
7	伴奏付け：借用和音（3）副属七の和音の第1転回形①／曲種（7）【み】～【わ】／作品と作曲家（7）ピアノ協奏曲／コード・調判定・移調（7）／楽曲分析（7）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
8	伴奏付け：借用和音（4）副属七の和音の第1転回形②、ドッペルドミナントの第1転回形①／曲種（8）復習① 各種名称／作品と作曲家（8）ヴァイオリン協奏曲／コード・調判定・移調（8）／楽曲分析（8）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形、ドッペルドミナントの第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								
9	伴奏付け：借用和音（5）副属七の和音の第1転回形③、ドッペルドミナントの第1転回形②／曲種（9）復習② 各種名称／作品と作曲家（9）弦楽曲／コード・調判定・移調（9）／楽曲分析（9）／聴音／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形、ドッペルドミナントの第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
10	伴奏付け：借用和音（6）副属七の和音の第1転回形④、曲種（10）復習③ 器楽・器楽合奏に関するもの／作品と作曲家（10）歌曲／コード・調判定・移調（10）／楽曲分析（10）／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
11	伴奏付け：復習、ディミニッシュ（1）／曲種（11）復習④ 声楽に関するもの／作品と作曲家（11）ピアノ曲①／コード・調判定・移調（11）／楽曲分析（11）／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュの伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
12	伴奏付け：復習、ディミニッシュ（2）／曲種（12）復習⑤ 舞曲／作品と作曲家（12）ピアノ曲②／コード・調判定・移調（12）／楽曲分析（12）／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュの伴奏付けが確実にできるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
13	伴奏付け：転調（1）／曲種（13）復習⑥ 組曲／作品と作曲家（13）ピアノ曲③／コード・調判定・移調（13）／楽曲分析（13）／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、転調の伴奏付けができるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
14	伴奏付け：転調（2）／曲種（14）復習⑦ 色々な性格楽曲／作品と作曲家（14）ピアノ曲④／コード・調判定・移調（14）／楽曲分析（14）／聴音／課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、転調の伴奏付けが確実にできるようにし、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する（1h～2h）
15	まとめ・受験対策、課題の確認 【課題(復習)】 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする（1h）
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からることは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。

【3S4B213】グレード対策基礎 I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	三輪 泰子								
資格・制限等	特になし								
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。								
実務家教員	音楽教室講師・17年								
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。								
到達目標	知識・理解	和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、問題演習する。			◎				
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することでの表現力を高めたい。			○				
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。			○				
	関心・意欲・態度	和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	試験	50	20	20	-	90			
	受講態度	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	50	20	20	10	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。								
テキスト	『和声 理論と実習 I』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 『ヤマハ指導グレード5,4,3級筆記試験問題一覧2013~2015年実施』ヤマハ音楽振興会(1,430円)ISBN:9784864617437								
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材にして下さい。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	和声学、楽典の予備知識、調号の理解 [課題(準備)]教科書を購入して、読んでみましょう。(1h) ノートに、長調、短調を調号順に書き出してみましょう。(1h)								
2	基本位置3和音の配置、音階上にできる和音 [課題(復習)]課題1.2を解いてみましょう。(1h) ノートに、長音階、短音階上にできる和音を書きだしてみましょう。(1h)								
3	基本位置3和音の配置、コードネームの理解 [課題(復習)]課題3.4を解いてみましょう。(1h) 長音階、短音階上に出来る3和音に、コードネームを書き入れましょう。(1h)								
4	基本位置3和音の配置、コードネームの理解 [課題(復習)]課題5(II→V)を解いてみましょう。(1h) 長音階、短音階上に出来る4和音に、コードネームを書き入れましょう。(1h)								
5	基本位置3和音の配置、譜表、音名の理解 [課題(復習)]課題6(V→VI)を解いてみましょう。(1h) 音部記号、日本音名、ドイツ音名を覚えましょう。(1h)								
6	和音設定の原理、音符と休符の理解 [課題(復習)]課題7(T,D,S)を解いてみましょう。(1h) 音符と休符の種類を覚えましょう。(1h)								
7	和音設定の原理、拍子とリズムの理解 [課題(復習)]課題8(複合カデンツ)を解いてみましょう。(1h) 拍子記号、種類を覚えて、リズム譜を書いてみましょう。(1h)								
8	和音設定の原理、音程の理解 [課題(復習)]課題9(終止形)を解いてみましょう。(1h) 音程の名称と種類を覚えましょう。(1h)								
9	各種の調(長調)、音程の理解 [課題(復習)]課題10を解いてみましょう。(1h) 音程の性質名の変化、転回を覚えましょう。(1h)								
10	各種の調(短調) [課題(復習)]課題11を解いてみましょう。(1h) 音階構成音の名称を覚えましょう。(1h)								
11	各種の調(総合) [課題(復習)]課題12を解いてみましょう。(1h) 五度圏を理解し、表を書きましょう。(1h)								
12	補充課題 [課題(復習)]3和音基本位置(1~3)を解いてみましょう。(1h) 近親調と遠隔調を理解し、図を書いてみましょう。(1h)								
13	補充課題 [課題(復習)]3和音基本位置(4~6)を解いてみましょう。(1h) グレード問題集1を解きましょう。(1h)								
14	補充課題 [課題(復習)]3和音基本位置(7~10)を解いてみましょう。(1h) グレード問題集2を解きましょう。(1h)								
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h) グレード問題集3を解きましょう。(1h)								
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；15時間】								
受講学生へのメッセージ	和声学と楽典は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。								

【3S4S214】グレード対策基礎II		音楽総合学科		1年後期					
1単位		選択		演習					
教員	三輪 泰子								
資格・制限等	特になし								
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。								
実務家教員	音楽教室講師・17年								
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。								
到達目標	知識・理解	和声楽典の基礎的な知識を身に付け、問題演習する。			◎				
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することでの表現力を高めたい。			○				
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。			○				
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようになります。			△				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	試験	50	20	20	-	90			
	受講態度	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	50	20	20	10	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。								
テキスト	『和声 理論と実習 I』 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 『ヤマハ指導グレード5, 4, 3級筆記問題一覧2013～2015年実施』 ヤマハ音楽振興会(1,430円) ISBN:9784864617437 「和声学 I」 「ヤマハ問題一覧」 、前期履修者は購入済								
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材にして下さい。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	3和音の第1転回位置 [課題]課題13. 14. 15を解いてみましょう。(1h)移調問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
2	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題16. 17. 18を解いてみましょう。(1h)調の判定問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
3	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19 (1～4) を解いてみましょう。(1h)三和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
4	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19 (5～8) を解いてみましょう。(1h)四和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
5	3和音の第1転回位置 [課題(復習)]課題19 (9～12) を解いてみましょう。(1h)増三和音、減三和音の種類、転回に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
6	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h)コードネームに関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)速度標語に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
8	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題20. 21. 22. 23を解いてみましょう。(1h)曲想標語に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
9	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題24 (1～6) を解いてみましょう。(1h)強弱記号、曲中で速度を変化させる言葉を覚えて、理解を深めましょう。(1h)								
10	3和音の第2転回位置 [課題(復習)]課題24 (7～12) を解いてみましょう。(1h)付加語、奏法標語、略記法に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
11	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h) 楽式に関する問題を演習して、理解を深めましょう。(1h)								
12	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集4を解きましょう。(1h)								
13	補充課題の実習(3和音総合) [課題(復習)]課題(1～5)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集5を解きましょう。(1h)								
14	補充課題の実習(3和音総合)(1h) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)グレード問題集6を解きましょう。(1h)								
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)グレード問題集7を解きましょう。(1h)								
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]								

受講学生への
メッセージ

和声学と楽典は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。
オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3S9S101】音楽総合特講 I		音楽総合学科	1年後期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・猿井 久美子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていく職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養や仕事内容についての理解を図ります。また職業人として、企業が求める人材や職業観について学修します。音楽隊以外の公務員希望者や一般企業就職希望者にとってもきわめて有意味な学修内容です。					
実務家教員						
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基礎的な内容について復習を行い、教養として必要な基本的事項の理解と定着を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。また、公務員の仕事内容や職業についてディスカッションや発表も行います。					
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基礎的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。			◎	
	思考・判断・表現	復習した基礎的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために活用させようと努力できる。			○	
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や技法の基礎を身につける。			△	
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	10	-	-	50
	学修記録表	10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価	-	-	5	10	15
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	50	20	10	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修姿勢や提出物などの状況で評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。テキストの事前学修課題については確認テストを実施します。					
テキスト	『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』山野晴雄 他著 実教出版(857円) ISBN:978-4-407-32160-9					
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス：授業の目的と目標、授業の進め方や学修活動、準備物の説明、確認テスト [課題（復習・予習）]確認テストの復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
2	地理1・漢字1の定着と発展 [課題（復習・予習）]地理1・漢字1の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
3	式の計算1・漢字2の定着と発展 [課題（復習・予習）]式の計算1・漢字2の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
4	地理2・漢字3の定着と発展 [課題（復習・予習）]地理2・漢字3の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
5	式の計算2・漢字4の読み書きの定着と発展 [課題（復習・予習）]式の計算2・漢字4の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
6	日本史1・漢字5の定着と発展 [課題（復習・予習）]学日本史1・漢字5の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
7	文字式と漢字6の定着と発展 [課題（復習・予習）]文字式と漢字6の復習と次時内容の予習を確実に行う（2～6h）					
8	日本史2と漢字7の定着と発展 [課題（復習・予習）]日本史2・漢字7の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
9	式の展開・因数分解と同字異読語の定着と発展 [課題（復習・予習）]式の展開・因数分解の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h）					
10	まとめ(第1回～9回までの学修の確認と定着) [課題（復習）]学んだ内容の総合的な復習を確実に行う（3～5h）					
11	公務員就職支援講座① 就職活動の流れ、心構え、進路希望調査 [課題（復習・発展）]個々の就職に対する意識を高め、将来について考える（3～5h）					
12	公務員就職支援講座② 公務員に適した人材、日本の雇用制度や就職状況 [課題（予習・準備）]公務員に適した人材の研究と日本の雇用制度や就職状況の把握、自己についての情報を集める（3～5h）					
13	公務員就職支援講座③ 進路発見ノート。各種公務員の仕事内容について知る。 [課題（復習・準備）]各種公務員のそれぞれの仕事内容についてのまとめと企業が求める人材について考える。（3～5h）					
14	公務員試験支援講座④ 自己理解と、企業が求める人材についてのまとめ。 自己の特徴についてまとめる。グループ討議を行う。 [課題（復習・発展）] 職業観についての個別発表の準備（3～5h）					
15	公務員試験支援講座⑤ 職業観について 各自個別発表。 [課題（復習）] 職業観についての他者の発表から、自己の職業観について考察する。（3～5h）					
時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					

受講学生への
メッセージ

音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や公務員の仕事内容を学びます。また、進路発見や、企業が求める人材、職業観についても学修するので、音楽隊以外の公務員をめざす学生や一般企業就職希望者にとっても活用可能な内容です。
オフィスアワー：水曜日5限終了後（1回目～10回目A301、11回目～15回目B204 他の日時も応相談）

【3S8B201】 ヴォーカル I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	五島 由美子								
資格・制限等	P·Or·MT·P/MT·Or/MT·W/MTコース必修								
授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に着ける授業です。 前期はイタリア歌曲を取り上げます。正しい発声を身につけて、表現力を深めていきます。								
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年								
授業方法	グループレッスンを中心として、お互いの声を聴きながら学びます。								
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が出来る。				<input type="radio"/>			
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽的な表現が理解できる。				<input checked="" type="radio"/>			
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに解決できる。				<input type="radio"/>			
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学習に取り組むことが出来る。				<input type="radio"/>			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	試験	10	20	20	15	65			
	発表・レポート	5	5	5	5	20			
	学習成果の自己評価	5	5	-	-	10			
	受講態度(学修や提出等の状況)	-	-	-	5	5			
	合 計(点)	20	30	25	25	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	フィードバックとして個人個人の発声の理解を確認します。								
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可								
参考書・教材									
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ガイダンス 正しい声の出し方 ブレスの仕方 身体表現等を学ぶ コンコーネ No.2 [課題(復習)]呼吸は1番大切なことなので、しっかり訓練して下さい。 1h								
2	グループ授業であるから、お互いに声を聴き合い学ぶ。 イタリア歌曲導入 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習)]身体表現なので、姿勢には普段から気を付ける事。 1h								
3	イタリア語の発声を学び、日本語との相違点を確認する。 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習)]イタリア歌曲は母音の明るさが特徴なので、明るい母音を毎日訓練しましょう。 1h								
4	イタリア歌曲の持つ明るい響きを学ぶ。 コンコーネ No.2 Caro mio ben [課題(復習)]顔の前面に響きが来るよう、日々体を使って会話しましょう。 1h								
5	イタリア古典作曲家の作品を学ぶ。 コンコーネ No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]独特な子音の練習を欠かさず行います。 1h								
6	イタリア語独自の発音に注意しながら歌うことが出来る。 コンコーネ No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]ハミングでの練習で息を長くしましょう。 1h								
7	装飾音の取り扱いに注意して歌う。 コンコーネ No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]毎日歌詞を読む訓練をします。 1h								
8	フレーズの長さを考える。 コンコーネ No.3 Sebben crudere [課題(復習)]リズム感が大切です。体でリズムが刻めるようにします。 1h								
9	コンコーネ No.3 Sebben crudere [課題(復習)]イタリア ナポリ民謡の流れを調べる。 1h								
10	コンコーネ No.3 Sebben crudere [課題(復習)]南の明るい響きを感じる。 1h								
11	イタリアバロックの作曲家、ヘンデルの曲を学ぶ。 コンコーネ No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]母音で息を長くします。 1h								
12	フレーズの長さを考える。 コンコーネ No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]母音によって響きが変わらないように、全ての母音で練習します。 1h								
13	フレーズの長さを保つ練習。 コンコーネ No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]ピアノと合わせる練習をしましょう。 1h								
14	試験曲を選曲する。各自課題を出し合い、話し合う。 コンコーネ No.3 試験曲を各グループごとに分かれて歌う。 [課題(復習)]伴奏者とコミュニケーションをとる。 1h								
15	伴奏合わせをする。 コンコーネ No.3 テスト前の試演会 [課題(準備)]伴奏に合わせ、各自の思いが伝わる演奏ができるようにする。 1h								
時間外での学修	毎日発声の練習を怠らない。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】								

受講学生への
メッセージ

声楽の勉強は、ピアノ・楽器への応用が著しい課目です。しっかり技術を身につけましょう。
オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日16:10~16:20

【3S8S202】 ヴォーカルII		音楽総合学科		1年後期		
教員	五島 由美子	1単位	選択	演習	30時間	
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修					
授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は日本歌曲とドイツ歌曲を取り上げます。それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交え進めて行きます。					
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導26年					
授業方法	グループレッスンの中で相互に他声を聴き合い、意見交換をする。					
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的理論や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。			○	
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。			◎	
	技能	音楽の専門家としての情報収取能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。			○	
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	10	20	20	15	65
	発表・レポート	5	5	5	5	20
	学習成果の自己評価	5	5	-	-	10
	受講態度(学修や提出等の状況)	-	-	-	5	5
	合 計(点)	20	30	25	25	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席の学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして各項目終了時に個別に確認し指示をします。					
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可					
参考書・教材	なし					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	日本歌曲を学ぶ。「浜辺の歌」 コンコーネ No.4 [課題(準備)]日本歌曲の歴史を学ぶ。(1h)					
2	イタリア歌曲との相違点を学ぶ。「浜辺の歌」 コンコーネ No.4 [課題(準備)]浜辺の歌の歌詞を朗読する。(1h)					
3	情景を浮かべながら歌う。「赤とんぼ」 コンコーネ No.5 [課題(準備)]作曲者 山田耕筰について文献を調べる。(1h)					
4	作詞者・作曲者の意図を知る。「赤とんぼ」 コンコーネ No.5 [課題(準備)]赤とんぼの歌詞を朗読する。(1h)					
5	言葉に沿って音楽の流れをつかむ。「早春賦」 コンコーネ No.6 [課題(準備)]作曲者 中田章について文献を調べる。(1h)					
6	響きの位置を確認しながら歌う。「早春賦」 コンコーネ No.6 [課題(準備)]早春賦の歌詞を朗読する。(1h)					
7	日本歌曲のまとめ。「浜辺の歌」「赤とんぼ」「早春賦」の中から各自選曲した曲を発表し演奏する。 [課題(準備)]ピアニストとよく合わせをしておく。(1h)					
8	ドイツ歌曲を学ぶ。「Ich liebe dich」 コンコーネ No.7 [課題(準備)]ベートーベンについて文献を調べる。(1h)					
9	ドイツ歌曲を学ぶ。「Ich liebe dich」 コンコーネ No.7 [課題(準備)]Ich liebe dichの歌詞をよく読む。(1h)					
10	ドイツ歌曲を学ぶ。「An die Musik」 コンコーネ No.8 [課題(準備)]シューベルトについて文献を調べる。(1h)					
11	ドイツ歌曲を学ぶ。「An die Musik」 コンコーネ No.8 [課題(準備)]An die Musikの歌詞をよく読む。(1h)					
12	ドイツ歌曲を学ぶ。「Heidenröslein」 コンコーネ No.10 [課題(準備)]Heidenrösleinの歌詞をよく読む。(1h)					
13	ドイツ歌曲を学ぶ。「Heidenröslein」 コンコーネ No.10 [課題(準備)]Heidenrösleinの歌詞をよく読む。(1h)					
14	ドイツ歌曲のまとめ。 学修した3曲のドイツ歌曲から各自選曲し歌う。 [課題(準備)]選曲した曲を暗譜する。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	ドイツ歌曲のまとめ。 選曲した曲を発表する。 【課題(準備)】ピアニストとよく合わせ、曲を理解する。 (1h)
時間外での学修	毎日の発声練習を欠かさないこと。 身体の訓練を怠らないこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間 : 15時間】
受講学生への メッセージ	身体表現の授業です。健康には留意してください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日16:10～16:20

【3S8B205】ソルフェージュ I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	五島 由美子								
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修								
授業内容	音楽を的確に表現する為の、音楽的基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。								
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年								
授業方法	実技・実践を中心として基礎的な音楽知識を習得していきます。								
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。			◎				
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。			○				
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーションの能力がある。			△				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取りうとする意欲がある。			○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	発表	20	-	10	10	40			
	筆記試験	30	10	-	-	40			
	自己評価	5	5	-	-	10			
	受講態度	-	-	-	10	10			
	合 計(点)	55	15	10	20	100			
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、返却時に解答の解説をします。								
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『新曲視唱(1)』エヌ・ティー・エヌ 手持ち可								
参考書・教材									
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ソルフェージュについて（授業ガイダンス、ソルフェージュの理解と確認） 【課題(復習)】これまでに学んだことのあるソルフェージュについての質疑応答。（1～2h）								
2	コールユーブンゲン No.2 4 6 聽音 【課題(準備)】コールユーブンゲンNo.7 9 11の予習。（1～2h）								
3	コールユーブンゲン No.7 9 11 聽音 【課題】コールユーブンゲンNo.13 15 17の予習とNo.7 9 11の復習。（1～2h）								
4	コールユーブンゲン No.13 15 17 聽音 【課題】コールユーブンゲンNo.18の予習とNo.13 15 17の復習。（1～2h）								
5	コールユーブンゲン No.18 聽音 確認テスト No.18まで 【課題】コールユーブンゲンNo.19 20の予習とNo.18の復習。（1～2h）								
6	コールユーブンゲン No.19 20 聽音 新曲第1章 No.1～No.5 【課題】コールユーブンゲンNo.23の予習と新曲視唱の復習。（1～2h）								
7	コールユーブンゲン No.23 聽音 新曲第1章 No.11～No.15 【課題】コールユーブンゲンNo.24の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
8	コールユーブンゲン No.24 聽音 新曲第1章 No.21～No.25 【課題】コールユーブンゲンNo.25の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
9	コールユーブンゲン No.25 聽音 新曲第1章 No.31～No.35 【課題】コールユーブンゲンNo.26の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
10	コールユーブンゲン No.25までの確認テスト 新曲第1章 No.41～No.45 【課題】コールユーブンゲンNo.26の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
11	コールユーブンゲン No.26 聽音 新曲第1章 No.111～No.115 【課題】コールユーブンゲンNo.27の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
12	コールユーブンゲン No.27 聽音 新曲第1章 No.121～No.125 【課題】コールユーブンゲンNo.の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
13	コールユーブンゲン No.28 聽音 新曲第1章 No.131～No.135 【課題】コールユーブンゲンNo.29の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
14	コールユーブンゲン No.29 聽音 新曲第1章 No.141～No.145 【課題】コールユーブンゲンNo.29の予習と既習曲の復習。（1～2h）								
15	コールユーブンゲン No.29までの確認テスト 新曲第1章 No.151～No.155 【課題(復習)】既習の演習課題を復習しておく。（1～2h）								
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】								
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日 16:10～16:20								

【3S8S206】ソルフェージュII		音楽総合学科		1年後期						
1単位		選択		演習						
教員	五島 由美子									
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修									
授業内容	1年前期で習得した音楽を、更に的確に表現する為の音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。									
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年									
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。									
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。			◎					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。			○					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。			△					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取りうとする意欲がある。			○					
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。								
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)				
	発表	20	-	10	10	40				
	筆記試験	30	10	-	-	40				
	自己評価	5	5	-	-	10				
	受講意欲	-	-	-	10	10				
	合 計(点)	55	15	10	20	100				
評価の特記事項										
I C T活用										
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。									
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可									
参考書・教材										
内容										
実施回	授業内容・目標									
1	コンコーネNo. 4 コールユーブンゲンNo. 30 新曲視唱No. 6～No. 10 [課題] コールユーブンゲンNo. 32を予習し、No. 31の復習をする。(1h)					聴音				
2	コンコーネNo. 4 コールユーブンゲンNo. 31 新曲視唱No. 16～No. 20 [課題] コールユーブンゲンNo. 32を予習し、No. 31の復習をする。(1h)					聴音				
3	コンコーネNo. 5 コールユーブンゲンNo. 32 新曲視唱No. 28～No. 30 [課題] コールユーブンゲンNo. 33を予習し、No. 32の復習をする。(1h)					聴音				
4	コンコーネNo. 5 コールユーブンゲンNo. 33 新曲視唱No. 36～No. 40 [課題] コールユーブンゲンNo. 34 No. 35を予習し、No. 33の復習をする。(1h)					聴音				
5	コンコーネNo. 6 コールユーブンゲンNo. 34 No. 35 新曲視唱 第2章No. 1～No. 10 到達度確認テスト [課題] コールユーブンゲンNo. 36を予習し、No. 34 No. 35の復習をする。(1h)					聴音				
6	コンコーネNo. 6 コールユーブンゲンNo. 36 新曲視唱 第2章No. 11～No. 20 [課題] コールユーブンゲンNo. 37を予習し、No. 36の復習をする。(1h)					聴音				
7	コンコーネNo. 7 コールユーブンゲンNo. 37 新曲視唱 第2章No. 21～No. 30 [課題] コールユーブンゲンNo. 38を予習し、No. 37の復習をする。(1h)					聴音				
8	コンコーネNo. 7 コールユーブンゲンNo. 38 新曲視唱 第2章No. 31～No. 40 [課題] コールユーブンゲンNo. 39を予習し、No. 38の復習をする。(1h)					聴音				
9	コンコーネNo. 8 コールユーブンゲンNo. 39 新曲視唱 第2章No. 41～No. 50 [課題] コールユーブンゲンNo. 40 No. 41を予習し、No. 39の復習をする。(1h)					聴音				
10	コンコーネNo. 8 コールユーブンゲンNo. 40 No. 41 新曲視唱 第2章No. 51～No. 60 到達度確認テスト [課題] コールユーブンゲンNo. 42を予習し、No. 40 No. 41の復習をする。(1h)					聴音				
11	コンコーネNo. 11 コールユーブンゲンNo. 42 新曲視唱 第2章No. 61～No. 70 [課題] コールユーブンゲンNo. 40 No. 41を予習し、No. 39の復習をする。(1h)					聴音				
12	コンコーネNo. 11 コールユーブンゲンNo. 43 新曲視唱 第2章No. 71～No. 80 [課題] コールユーブンゲンNo. 44を予習し、No. 43の復習をする。(1h)					聴音				
13	コンコーネNo. 12 コールユーブンゲンNo. 44 新曲視唱 第2章No. 81～No. 90 [課題] コールユーブンゲンNo. 45を予習し、No. 44の復習をする。(1h)					聴音				
14	コンコーネNo. 12 コールユーブンゲンNo. 45 新曲視唱 第3章No. 1～No. 10 [課題(復習)] コールユーブンゲン1年のまとめ。既習曲の復習をする。(1h)					聴音				
15	コンコーネNo. 12 到達度確認テスト 新曲視唱 第3章No. 11～No. 20 [課題(復習)] コールユーブンゲン1年のまとめ。既習曲の復習をする。(1h)					聴音				
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】									
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日16:10～16:20									

【3S8B109】音楽理論 I		音楽総合学科		1年前期		
教員	長尾 洪基	2単位	選択	講義	30時間	
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修					
授業内容	音楽を演奏するためには、楽譜についての「約束事」を知る必要があります。それが音楽理論です。すでに知っていることなども、基本から系統立てて学修します。音・音楽についての正確な知識を身に付け、自身の演奏する楽曲について理解を高め、演奏に活かされることを目指します。					
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年					
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。					
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。			○	
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	40	20	-	-	60
	小テスト	15	5	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	55	25	-	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。					
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008					
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業説明 音・純正律と十二平均律 楽譜の書き方 [課題(準備)] テキストの序章をひと通り読んでおく、音部記号・音符を書いてみる (4h)					
2	譜表と音名 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
3	音符と休符 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
4	リズムと拍子(1) リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意、強起と弱起 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
5	リズムと拍子(2) 拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
6	音程(1) 度数、音程における完全・長・短などの種類、幹音どうしの2音によってできる音程 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
7	音程(2) 派生音(♯・♭などのついた音)を含む2音によってできる音程 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
8	音程(3) 複音程 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
9	音程(4) 音程の転回、協和音程と不協和音程 [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
10	音階(1) 長音階と短音階① [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
11	音階(2) 長音階と短音階② [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
12	音階(3) 調① [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
13	音階(4) 調② [課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
14	音階(5) 調の相互関係 [[課題(復習)] 学修した内容の復習・宿題 (4h)					
15	前期まとめ [課題(復習・準備)] 学修した内容の復習・試験対策 (4~10h)					
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；60時間]					
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していくよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【3S8S110】音楽理論II		音楽総合学科	1年後期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	長尾 洪基					
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修					
授業内容	前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。					
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年					
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。					
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。			○	
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	40	20	-	-	60
	小テスト	15	5	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	55	25	-	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。					
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008 「音楽理論I」履修者は購入済					
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	音階（6）移調と転調① [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
2	音階（7）移調と転調② [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
3	音階（8）調の判定① [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
4	音階（9）調の判定② [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
5	音階（10）調の判定③、その他の音階 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
6	和音（1）三和音と七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
7	和音（2）三和音の種類 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
8	和音（3）和音の基本形および転回形 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
9	和音（4）音階各音上の三和音、七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
10	和音（5）和音の機能、主要三和音と副三和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
11	速さ・強さに関する表示法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
12	曲想・奏法に関する表示法（1）曲想に関する用語（発想標語） [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
13	曲想・奏法に関する表示法（2）奏法を指示する用語・記号 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
14	曲想に関する表示法（3）裝飾音・裝飾記号、略記法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
15	まとめ [課題（復習・準備）] 学修した内容の復習・試験対策（4h）					
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していくよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【3S8B111】音楽史 I		音楽総合学科		1年前期			
2単位		選択		講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	レポート	40	20	20	-	80	
	ノートチェック	-	-	-	10	10	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	40	20	20	20	100	
評価の特記事項							
I C T活用							
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます。						
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	古代、中世の音楽 [課題(準備)]音楽史の本を読んでみましょう。(3~5h)						
2	ルネサンス音楽 [課題(予習)]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(3~5h)						
3	バロック音楽 [課題(予習)]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(3~5h)						
4	クラシック音楽 [課題(予習)]モーツアルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
5	クラシック音楽 [課題(予習)]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(3~5h)						
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
7	ロマン主義音楽 [課題(予習)]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(3~5h)						
8	第1回レポート [課題(準備)]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。(3~5h)						
9	ロマン主義音楽 [課題(予習)]リストを聴いてみましょう。(3~5h)						
10	新ロマン主義音楽 [課題(予習)]ヴァーグナー、ブームスを聴いてみましょう。(3~5h)						
11	フランス音楽 [課題(予習)]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(3~5h)						
12	イタリア音楽 [課題(予習)]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(3~5h)						
13	イギリス音楽 [課題(予習)]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(3~5h)						
14	ウィーンの音楽 [課題(予習)]シュトラウスを聴いてみましょう。(3~5h)						
15	アメリカの音楽 [課題(予習)]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(3~5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間; 60時間]						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S8S112】音楽史II		音楽総合学科	1年後期			
2単位		選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子					
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修					
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。					
実務家教員	音楽教室講師・17年					
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。					
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。			○	
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。			○	
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	40	20	20	-	80
	ノートチェック	-	-	-	10	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	40	20	20	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます					
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬 直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014 「音楽史I」履修者は購入済					
参考書・教材	特にありません。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ロシアの音楽 [課題(予習)]ロシア5人組、ムソルグ斯基の音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
2	ロシアの音楽 [課題(予習)]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題(予習)]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題(予習)]スマタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
5	スペインの音楽 [課題(予習)]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
6	民族主義音楽のまとめ [課題(予習)]お気に入りの曲を見つけて聴いてみましょう。(3~5h)					
7	第3回レポート [課題(準備)]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(3~5h)					
8	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
9	近代・現代の音楽 [課題(予習)]シェーンベルク、ストラヴィン斯基の音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
10	近代・現代の音楽 [課題(予習)]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
11	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
12	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バレフスキイの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
13	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)					
14	日本の音楽 [課題(復習)]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(3~5h)					
15	世界の音楽 [課題(復習)]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(3~5h)					
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 60時間]					
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。					

【3S3B205】鍵盤楽器 I		音楽総合学科		1年前期			
1単位		選択		演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MT・W/MTコース必修						
授業内容	鍵盤楽器であるピアノの基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさや素晴らしさを感じ、より豊かな演奏表現ができるようにしていきます。						
実務家教員							
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスン時間までの待ち時間は、課題の自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノ演奏に必要な基礎的な演奏技術や奏法を身につけることができる。			<input type="radio"/>		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。			<input checked="" type="radio"/>		
	技能	音楽の専門家として役立てていけるよう、演奏技術を向上することができる。			<input checked="" type="radio"/>		
	関心・意欲・態度	ピアノに関心を持ち意欲的に取り組む姿勢を伝えることができる。			<input type="radio"/>		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	-	30	30	-	60	
	受講態度	20	-	-	20	40	
	合 計(点)	20	30	30	20	100	
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題である練習曲の終了時に伝えます。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・レッスンの進め方の説明、次回からの練習曲を選曲する [課題(準備)] レッスンする曲の準備・譜読みをする(1h)						
2	練習曲(1) 譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、譜読みが正しくできているか確認する(1h)						
3	練習曲(2)テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニック練習をする(1h)						
4	練習曲(3)部分練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、片手奏や部分練習をする(1h)						
5	練習曲(4)音の強弱 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音の強弱つける(1h)						
6	練習曲(5)曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲想を楽譜に書かれている言葉をもとに付ける(1h)						
7	練習曲(6)適切なテンポ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲にふさわしいテンポにする(1h)						
8	練習曲(7)フレージング・バランス [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、フレーズの確認、左右の音のバランスをとる(1h)						
9	練習曲(8)試験曲を中心とした練習・音色作り [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲に合った音色を出す(1h)						
10	練習曲(9)音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音の響きをよく聞き確認し表現する(1h)						
11	練習曲(10)暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜を丁寧にする(1h)						
12	練習曲(11)正確な暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜を確実にできるようにする(1h)						
13	練習曲(12)弾き込み(1) [課題(復習)] レッスンの復習をし、曲の流れをとらえて、止まらず演奏する(1h)						
14	練習曲(13)弾き込み(2) [課題(復習)] レッスンの復習をし、弾けない所がなくなるように弾き込む(1h)						
15	練習曲(14)仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、前期のまとめになるように仕上げる(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し、各々の専門分野に結び付け役立てていけるように取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3S3B206】鍵盤楽器Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
1単位		選択		演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MT・W/MTコース必修						
授業内容	鍵盤楽器であるピアノの基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさや素晴らしさを感じ、より豊かな演奏表現ができるようにしていきます。						
実務家教員							
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスン時間までの待ち時間は、課題の自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノ演奏に必要な基礎的な演奏技術や奏法を身につけることができる。			<input type="radio"/>		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。			<input checked="" type="radio"/>		
	技能	音楽の専門家として役立てていけるよう、演奏技術を向上することができる。			<input checked="" type="radio"/>		
	関心・意欲・態度	ピアノに関心を持ち意欲的に取り組む姿勢を伝えることができる。			<input type="radio"/>		
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	-	30	30	-	60	
	受講態度	20	-	-	20	40	
	合 計(点)	20	30	30	20	100	
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題である練習曲の終了時に伝えます。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題の確認・次回からの練習曲を選曲 [課題(準備)] 休暇中の課題の確認、次回からの練習曲を決め譜読みをする(1h)						
2	練習曲(1) 譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、譜読みが正しくできているか確認する(1h)						
3	練習曲(2)テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、テクニック練習をする(1h)						
4	練習曲(3)部分練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、片手奏や部分練習をする(1h)						
5	練習曲(4)音の強弱 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音の強弱つける(1h)						
6	練習曲(5)曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲想を楽語などをもとに付ける(1h)						
7	練習曲(6)適切なテンポ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲にふさわしいテンポにする(1h)						
8	練習曲(7)フレージング・バランス [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、フレーズの確認、左右の音のバランスをとる(1h)						
9	練習曲(8)試験曲を中心とした練習・音色作り [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、曲に合った音色を出す(1h)						
10	練習曲(9)音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、音の響きをよく聞き確認し表現する(1h)						
11	練習曲(10)暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜をする(1h)						
12	練習曲(11)正確な暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜を確実にできるようにする(1h)						
13	練習曲(12)弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、曲の流れをとらえて、止まらず演奏する(1h)						
14	練習曲(13)仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、自信を持って演奏できるよう仕上げる(1h)						
15	練習曲(14)まとめ [課題(復習)] レッスンの復習をし、これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるようになる(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し、各々の専門分野に結び付け役立てていけるように取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3T7F201】スポーツ・レクリエーションⅠ		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	垣添 忠厚								
資格・制限等	特になし								
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合ったニュースポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これらニュースポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させ、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。4/25(土)はレクリエーションイベント(岐阜メモリアルセンター)に学外実習としてボランティア参加します。詳細は、授業内で説明します。講師の関係で、4/19と5/17の2回は5限に授業を実施します。								
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭（18年）、小学校教諭（5年）								
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。								
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。				○			
	思考・判断・表現	保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。				◎			
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。				◎			
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。				○			
	備考	○・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	発表	10	-	10	-	20			
	レポート	10	10	-	-	20			
	自己評価	-	10	-	-	10			
	課題提出	-	10	10	-	20			
	受講態度	-	-	10	20	30			
	合 計(点)	20	30	30	20	100			
評価の特記事項	発表(各自1回)、課題提出(2回)、毎回のレポートと自己評価を基に評価します。受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。								
I C T 活用	日本レクリエーション協会のホームページからレクリエーション活動を学ぶ。								
課題に対するフィードバック	レクリエーションの発表等の他者評価を共有します。								
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円) ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法 (楽しさをとおした心の元気づくり)』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (880円)								
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	理論（レク科目1）：ガイダンス/レクリエーション概論（担当教員：垣添） ・レクリエーションとレクリエーション・インストラクターの役割について学びます。 [課題（復習）] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）								
2	実技（レク科目4）：信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー1（担当教員：松岡） 4/19 5限 ・仲間づくりのためのアイスブレーキング、レクリエーション活動 ・あたたかくもてなすという意識と配慮 [課題（復習）] 信頼関係づくりに大切な要素をレポートにまとめる。（1h～2h）								
3	(4/25) 実技（レク科目4）：信頼関係づくりの方法1（引率教員：垣添） 7/12補講分 ・子どもあそび広場2021～軽スポーツで異世代交流～岐阜メモリアルセンターに参加し、参加者とレクリエーションを通して親睦を図る。 ・対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 [課題（予習）] 参加プログラムと役割について確認する。（1h～2h）								
4	(4/25) 実習：信頼関係づくりの方法2（引率教員：垣添） 7/19補講分 ・子どもあそび広場2021～軽スポーツで異世代交流～岐阜メモリアルセンターに参加し、参加者とレクリエーションを通して親睦を図る。 ・対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 [課題（復習）] ボランティア参加から得た成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）								
5	(4/25) 実習：信頼関係づくりの方法3（引率教員：松岡） 7/26補講分 ・子どもあそび広場2021～軽スポーツで異世代交流～岐阜メモリアルセンターに参加し、参加者とレクリエーションを通して親睦を図る。 ・対象者との意思疎通を促進する技術 [課題（復習）] ボランティア参加から得た成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）								
6	理論（レク科目6）：信頼関係づくりの方法（担当教員：垣添） ・ホスピタリティーの理論に基づき、ボランティアの実践での成果と課題を意見交流する。 ・信頼関係づくりの方法 [課題（復習）] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）								
7	演習：楽しさと心の元気づくりの方法として、ミナモ体操、ミナモダンスを実践する。（担当教員：垣添） [課題（復習）] ミナモ体操、ミナモダンスの師範演技ができるように練習する。（1h～2h）								
8	実技（レク科目4）：良好な集団づくりの方法1（担当教員：松岡） 5/17 5限 ・集団がまとまる仕組みを生かすプログラム [課題（復習）] レクリエーション活動を通した集団づくりの要素をまとめる。（1h～2h）								
9	演習：グループワーク1（担当：垣添） ・考えてきたアイスブレーキングをグループに分かれ実践する。 [課題（予習）] 自分が取り組みたいアイスブレーキングを3つ以上選択する。（1h～2h）								
10	演習：グループワーク2（担当：垣添） ・グループごとに実践するアイスブレーキングを決め、計画する。 [課題（復習）] レクリエーションを行う計画書を深める。（1h～2h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
11	演習：グループワーク3（担当：垣添） ・グループごとに実践するアイスブレーキングの準備、リハーサルをする。 【課題（復習）】学修内容を振り返り、レポートにまとめる。（1h～2h）
12	実技（レク科目5）：グループ発表1 ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 【課題（復習）】学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
13	実技（レク科目5）：グループ発表2 ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 【課題（復習）】学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
14	実技（レク科目5）：グループ発表3 ・レクリエーション支援のためのゲーム等を展開する。 ・発表が展開したアイスブレーキングをモデルプログラムとして習得する。 ・自己評価、他者評価を行い、よりよいレクリエーション支援について考える。 【課題（復習）】学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
15	実技（レク科目5）：集団レクリエーション活動のモデル ・身体活動を取り入れたレクリエーションゲームを習得する。 【課題（復習）】この科目的学修内容を振り返り、主体的なレクリエーション活動への取り組みをレポートにまとめる。（1h～2h）
時間外での学修	感染症の流行による社会情勢から、レクリエーションに関連するイベントが縮小されていますが、機会を見て主体的に参加するようにしましょう。公益財団法人日本レクリエーション協会のホームページを活用し、主体的に準備、計画を進めること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。

【3T7F202】スポーツ・レクリエーションⅡ		音楽総合学科		1年後期		
教員	垣添 忠厚	1単位	選択	演習	30時間	
資格・制限等	特になし					
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的的理解と指導法について学びます。10月31日(土)または11月1日(日)は、学外授業となります(授業時に説明します)。					
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)					
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。					
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。			◎	
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把握し、主体的に活動することができる。			○	
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。			○	
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	15	-	-	-	15
	自己評価	15	-	-	-	15
	発表	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	30	30
	合 計(点)	30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。					
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円) ISBN:978-4-931180-95-6 『スポーツレクリエーションⅠ』で購入済み					
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス/理論(レク科目2) : 楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気 ・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 [課題(復習)] 心の元気づくりに大切な要素をレポートにまとめる。(1h~2h)					
2	実技(レク科目4) : 良好的な集団づくりの方法1 ・コミュニケーションワーク I (個人ゲーム) [課題(予習)] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)					
3	実技(レク科目4) : 良好的な集団づくりの方法2 ・コミュニケーションワーク (集団ゲーム) [課題(予習)] 集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)					
4	理論(レク科目2) : 心の元気と地域のきずな ・対象者のこころの元気づくりの理解 [課題(復習)] 学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。(1h~2h)					
5	演習 : 対象に合わせたレクリエーション・ワーク (ドッジビーを活用したゲーム) 及び学外授業の説明 [課題(復習)] ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
6	現場実習(レク科目7) : (学外実習) ねんりんピック開会式またはレクレーション体験コーナー (スタッフとして) 1 11/22分補講 [課題(予習・準備)] 自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。(1h~2h)					
7	現場実習(レク科目7) : (学外実習) ねんりんピック開会式またはレクレーション体験コーナー (スタッフとして) 2 12/24分補講 [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
8	演習 : (学外実習) ねんりんピック開会式またはレクレーション体験コーナー (スタッフとして) 3 1/17 補講分 [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
9	理論(レク科目6) : リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習)] ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。					
10	実技(科目4) : 自主的主体的に楽しむ力を高める展開方法 ・レクリエーションのハードル設定とアレンジ [課題(復習)] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。					
11	実技(レク科目5) : モデル・プログラムの習得1 ・レクリエーション支援のための集団ゲーム1 [課題(復習)] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。					
12	実技(レク科目5) : モデル・プログラムの習得2 ・レクリエーション支援のための集団ゲーム2 [課題(復習)] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。					
13	実技(レク科目5) イベント企画1 (グループ作り、計画準備) ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベントを考え、計画する [課題(予習)] クリスマス会に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。(1h~2h)					
14	実技(レク科目5) イベント企画2 (企画準備・内容確認) ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 [課題(復習・準備)] クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる(1h~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	演習：イベント企画3 クリスマス会（発表）、まとめ、ノート（課題）の確認 【課題（復習）】クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること（参加手続きが必要な場合が有ります）。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。

【3T7S105】子どもの保健		音楽総合学科	1年前期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	杉本 陽子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	「子どもの保健」は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学ぶ科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。					
実務家教員	病院看護師 5年以上					
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義が中心ですが、受講生の考え方や意見を求めながら双方向で進めています。					
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について、基本的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの心と体の健康を守るために取り組みと課題について考えを述べることができる。				
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる。				
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる。				
	備考	◎○△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	65	20	-	-	85
	レポート	-	5	5	-	10
	受講態度	-	-	-	5	5
	合 計(点)	65	25	5	5	100
評価の特記事項	レポートと受講態度は、毎回の出席カード内容から評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	毎回の出席カード内容について次回授業でコメントし、フィードバックします。					
テキスト	『新基本保育シリーズ11「子どもの保健』』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)ISBN:978-4-8058-5791-5					
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス（授業の概要、評価方法）、子どもの健康と保育（子どもとは、おとなとは、養護と教育、保育における活動の場） 【課題（予習）】テキスト第1講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
2	子どもの健康概念と健康指標（健康の定義と指標、出生と子どもの死亡、子どもの疾病・異常） 【課題（予習）】テキスト第2・3講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
3	子どもの健康と母子保健施策（児童福祉法と施策、母子保健法と施策、先天性代謝異常症等マス・スクリーニング） 【課題（予習）】テキスト第3・8講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
4	地域保健活動と児童虐待の防止（地域における保健活動、児童虐待の防止等に関する法律と施策） 【課題（予習）】テキスト第4講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
5	子どもの成長と発達、身体的成长（成長発達の原則、身長・体重、脳の発達と運動機能） 【課題（予習）】テキスト第5講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
6	子どもの身体的成长と成長評価（頭部・胸部・歯・骨の成長、成長評価） 【課題（予習）】テキスト第5講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
7	子どもの機能的発達1（バイタルサイン－体温・呼吸・循環機能、水分代謝） 【課題（予習）】テキスト第6講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
8	子どもの機能的発達2（消化機能、腎泌尿器機能、中枢神経機能、血液機能、免疫機能、言語機能、発達評価） 【課題（予習）】テキスト第6講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
9	乳児期・幼児前期の子どもと家族（乳児期・幼児前期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） 【課題（予習）】テキスト第7・10・11・14講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
10	幼児後期・学童期の子どもと家族（幼児後期・学童期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） 【課題（予習）】テキスト第12・13・14講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
11	子どもの安全と事故予防（子どもの不慮の事故の特徴、家庭内や地域で起こりやすい事故、子どもの事故予防と環境の安全） 【課題（予習）】ニュースで報じられた子どもの事故について情報収集する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
12	子どもの遊びと保育（遊びの意義・目的・分類、病気の子どもにとっての遊びの意義） 【課題（予習）】現代における子どもの遊びの特徴について情報収集する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
13	子どもの食と栄養（子どもの食と栄養の特徴、乳児期・幼児期・学童期の食と栄養の特徴） 【課題（予習）】現代における子どもの食の特徴について情報収集する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
14	子どもの疾病予防と予防接種（子どもの疾病予防、予防接種法と施策） 【課題（予習）】テキスト第15講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					
15	子どもと病気（子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響） 【課題（予習）】テキスト第9講を通読する（1h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（1h）					

時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかり取り組んでください。学んだことを日常生活で接する子どもの様子で確認してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	日ごろから子どもに関するニュースや出来事に关心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意識的に観察してください。オフィスアワーは毎週火曜日10時～12時 I 319研究室（I号館3階）で対応します。

【3T7S106】教育原理		音楽総合学科	1年前期			
2単位	選択		講義	30時間		
教員	小椋 博文					
資格・制限等	特になし					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解することを目指します。					
実務家教員	高等学校管理職・10年					
授業方法	講義を中心としますが、グループワークやそれに基づいた発表も取り入れながら進めます。知識を身に付けるだけでなく、教育や保育に対する自分の考え方の形成を目指して展開していきます。					
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容に基づいて、自分の考えをまとめることができます。			○	
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。			○	
	関心・意欲・態度	教育・保育に対する関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。			△	
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	-	-	-	50
	課題提出	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合 計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。自宅で取り組む課題は提出状況及び内容で評価します。受講態度は授業への取組の態度で評価します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	課題については、提出後の授業で共有します。					
テキスト	『シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円) ISBN:978-4-86015-450-9					
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	教育の意義 【課題（予習）】第1章(P14～P25)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
2	教育の目的 【課題（予習）】第2章(P26～P37)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
3	教育と児童福祉のつながり 【課題（予習）】第3章(P38～P47)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
4	人間形成と家庭・地域・社会 【課題（予習）】第4章(P48～P59)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
5	教育制度の基礎 【課題（予習）】第5章(P60～P71)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
6	さまざまな国の教育思想家たち 【課題（予習）】第6章(P72～P83)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
7	日本の教育思想と歴史 【課題（予習）】第7章(P84～P99)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
8	近代教育成立の歴史 【課題（予習）】第8章(P100～P113)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
9	子ども観と教育観の変遷 【課題（予習）】第9章(P114～P129)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
10	教育行政および学校経営の基礎 【課題（予習）】第10章(P130～P141)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
11	保育・教育実践の基礎理論 【課題（予習）】第11章(P142～P159)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
12	教育実践の多様な取り組み 【課題（予習）】第12章(P160～P175)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
13	生涯学習社会と教育 【課題（予習）】第13章(P176～P191)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
14	現代の教育課題 【課題（予習）】第14章(P192～P204)を通読する。【課題（復習）】学びを振り返りまとめる(2～4h)					
15	まとめ（発表） 【課題（予習）】これまでの学びを振り返りまとめる(2～4h)					
時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、復習として学んだ内容をまとめた提出課題については、返却後ポートフォリオとして保存しておきましょう。【この科で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	教育について一緒に考えて行きましょう。オフィスアワーはA○(A号館○F)で毎週○曜日の○時から○時です。気軽に訪ねてきてください。					

【3T7S108】発達心理学		音楽総合学科		1年前期			
2単位		選択		講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	特になし						
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか？発達といふと赤ちゃんから大人までの期間のみがクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理的側面から理解していきます。これまでの人生を振り返りつつ、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観します。						
実務家教員							
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に基づき自分自身を振り返る演習的内容や、クラウドサービス「Sli.do」への意見入力など、能動的に学ぶ手法（アクティブラーニング）を適宜取り入れます。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を対象として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。				○	
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。				◎	
	技能	対象を理解し、相手の発達段階が持つ特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。				○	
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。				○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	授業時間内課題	5	10	10	5	30	
	授業時間外課題	10	10	5	5	30	
	レポート（小レポート、最終）	10	15	-	5	30	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	25	35	15	25	100	
評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニッツペーパー 授業時間外課題：時間外に取り組み次回授業で提出 レポート：ループリック（評価基準）とともに課題内容を提示						
I C T活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを適宜用いるので、携帯電話を持っている人はWifi利用登録をお勧めします。						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は次回以降の授業内で全体へのコメントとしてフィードバックを行います。 8回目の授業は7回目授業時間外課題の小レポートを用いた反転授業を行います。 15回目の授業も14回目授業時間外課題のワークシートを用いた反転授業を行います。						
テキスト	『やさしく学ぶ発達心理学』浜崎隆司、田村隆宏 ナカニシヤ出版(2,500円)ISBN:978-4779503887 補足資料を授業時に配付します。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、参考図書などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	はじめに（シラバス説明、文章の書き方） 生涯発達とは：生涯発達心理学の概念 各発達段階における発達課題 発達心理学研究の方法 [課題(復習)]教科書の第1章（P1～P22）を読む（2～4h）						
2	胎児期 乳児期①：胎児の身体発達 赤ちゃんの能力 [課題(復習)]教科書の第2章1節（P23～P35）を読む（2～4h）						
3	乳児期②：乳児期の人間関係 アタッチメント（愛着） [課題(復習)]教科書の第2章2節（P36～P49）を読む（2～4h）						
4	幼児期①：認知 情動 ことば あそび [課題(復習)]教科書の第1章～第2章（P1～P49）を読む（2～4h）						
5	幼児期②：人間関係 親・友だち・きょうだい 仲間 [課題(復習)]教科書の第3章1～2節（P51～P79）を読む（2～4h）						
6	児童期①：学習 情動 認知 [課題(復習)]教科書の第3章3節（P79～P94）を読む（2～4h）						
7	児童期②：仲間関係の発達過程 [課題(復習)]課題に基づき小レポートを作成する（4～6h）						
8	レポートの書き方 小レポートを用いた反転授業 練習問題 [課題(復習)]教科書の第4章2節（P110～P122）を読む（2～4h）						
9	青年期① 自己と他者 性 職業 [課題(復習)]教科書の第5章1節（P123～P133）を読む（2～4h）						
10	青年期② 人間関係 友だち 恋愛 [課題(復習)]教科書の第5章2節（P133～P144）を読む（2～4h）						
11	成人期 職業 結婚 家庭 親 人間関係 [課題(復習)]教科書の第6章（P145～P166）を読む（2～4h）						
12	中年期 人生の折り返し点 人間関係 生きがい [課題(復習)]教科書の第7章（P167～P185）を読む（2～4h）						
13	老年期① 人生の完成期 記憶 人格 知能 [課題(復習)]教科書の第8章（P187～P209）を読む（2～4h）						
14	ま老年期② 人生との別れ 死への態度 [課題(復習)]レポートについてのワークシートを記入しGoogleフォームに入力する（4h～6h）						
15	レポート交流 全体の振り返り [課題(復習)]課題に基づいて最終レポートを書く（4～8h）						

時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間 : 60時間】
受講学生へのメッセージ	発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：火曜日11時～12時 (A306研究室)

【3T7B110】音楽心理学		音楽総合学科		1年前期			
2単位		選択		講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業方法	演習を含む講義形式						
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけています。					
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。					
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度		
	筆記試験	40	20	-	-		
	課題提出	-	-	10	10		
	受講態度	-	-	-	20		
合 計(点)		40	20	10	30		
合計(点) 100							
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は最終試験の受験資格がありません。						
ICT活用	授業の感想、課題をGoogle フォームを利用して行います。						
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形でよいレポートを紹介する。						
テキスト							
参考書・教材	プリントを授業内で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題(復習)] Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる(4H)						
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題(復習)] Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する(4H)						
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象 [課題(復習)] Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる(4H)						
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる(4H)						
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について(1)観察法(2)実験法(3)質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について[課題(復習)] 学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する(4H)						
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する(4H)						
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題(復習)] 身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる(4H)						
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題] 知っているCMソングについて調べレポートにまとめる(4H)						
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する(4H)						
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する(4H)						
11	音楽聴取に関する研究2：刺激間要因を問題として [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する(4H)						
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する(4H)						
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる(4H)						
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、理解を深める(4H)						
15	テスト前の振り返り [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、テストの準備をする(4H)						
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への
メッセージ

実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参
加してください。
心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。
オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7B211】音楽療法演習		音楽総合学科	1年後期			
1単位	選択		演習	30時間		
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	MT・(P) / MT・(Or) / MT・(W) / MTコース必修					
授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。					
実務家教員	福祉・医療現場における音楽療法実践17年					
授業方法	学内での演習、発表。実践形式で行います。					
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。			<input type="radio"/>	
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。			<input type="radio"/>	
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。			<input checked="" type="radio"/>	
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。			<input checked="" type="radio"/>	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実践発表	10	10	20	10	50
	受講態度	-	10	-	10	20
	レポート	-	-	10	10	20
	期末試験	10	-	-	-	10
	合 計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト						
参考書・教材	資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション（年間計画・課題の確認） [課題（準備）]目標設定1（1～3h）					
2	グループ発表準備 [課題（準備）]計画、役割分担、練習（1～3h）					
3	グループ発表① [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
4	グループ発表② [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
5	グループ発表③ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
6	グループ発表④ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
7	グループ発表⑤ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
8	グループ発表評価、個人発表準備 [課題（準備）]自己評価、目標設定2、計画、練習（1～3h）					
9	個人発表① [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
10	個人発表② [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
11	個人発表③ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
12	個人発表④ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
13	個人発表⑤ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
14	個人発表評価 [課題（準備・復習）]自己評価、目標設定3（1～3h）					
15	演習のまとめ [課題（準備）]期末試験の取り組み（1～3h）					
時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲に関しての調査や練習は、事前に各自で進めてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3T7B114】音楽療法・基礎		音楽総合学科		1年後期			
教員	菅田 文子	2単位	選択	講義	30時間		
資格・制限等	MT・(P) / MT・(Or) / MT・(W) / MTコース必修						
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。					
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。					
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができます。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	40	30	-	-	70	
	発表	-	10	10	-	20	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	40	40	10	10	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には最終試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は最終試験の受験資格がありません。						
I C T 活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。						
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。						
テキスト	『標準 音楽療法入門〈下〉実践編』日野原 重明（監修）、篠田 知璋（編集）、加藤 美知子（編集）春秋社(3,520円) ISBN:4393934482						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）						
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を推し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的記述を分けて記述する（4H）						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）						
8	目標に応じた音楽活動の計画 1：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）						
9	目標に応じた音楽活動の計画 2：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）						
10	目標に応じた音楽活動の計画 3：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）						
11	事例から目標と活動を設定する演習 1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
12	事例から目標と活動を設定する演習 2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
13	事例から目標と活動を設定する演習 3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題（復習）]レポート課題に取り組む（4H）						
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）						

時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生への メッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7B217】音楽療法実践 I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		選択		演習					
教員	菅田 文子								
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修								
授業内容	各自課題を設定し、苦手なところを克服できるようがんばりましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。								
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年								
授業方法	学内の演習。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。								
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。			△				
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。			◎				
	技能	ギターのオープンコードを用いて弾き歌いができる。			◎				
	関心・意欲・態度	時間外での自習を意欲的に行い、課題を発表できる。			△				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	レポート	-	40	-	-	40			
	実技試験	-	-	40	-	40			
	発表（グループ発表含む）	10	-	-	5	15			
	受講態度	-	-	-	5	5			
	合 計(点)	10	40	40	10	100			
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。								
I C T活用									
課題に対するフィードバック	レポートのコメントを次の授業時に返します。								
テキスト									
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。 ギターはアコースティックギター（スチール弦）をピックで弾く形が望ましいので購入を検討するならば参考にしてください。学内専用（学外持ち出し不可）のギターで練習することが可能です。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）] 残りの課題5曲の練習（1H）								
2	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題5曲） [課題（復習）] 残りの課題6曲の練習（1H）								
3	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）] 学んだ内容の復習（1H）								
4	ミュージックペルのアンサンブル（長調のI-IV-V） [課題（復習）] 長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。（1H）								
5	ミュージックペルのアンサンブル（短調のI-IV-V） 宿題の発表。1人でグループを指揮する。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。[課題（復習）] 短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる（1H）								
6	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [課題（復習）] 自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する（1H）								
7	ギター各部の名称、メントナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード①Em、E [課題（復習）] 学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習（1H）								
8	オープンコード②A、A7、D、D7 [課題（復習）] 学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習（1H）								
9	オープンコード③G、G7 [課題（復習）] 学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習（1H）								
10	オープンコード⑤C、C7 [課題（復習）] 学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習（1H）								
11	オープンコード⑥F/アルペジオ [課題（復習）] 学んだ内容の復習、試験課題曲の選定（1H）								
12	試験の準備①自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）] 学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする（1H）								
13	試験の準備②自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）] 学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする（1H）								
14	試験の準備③自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）] 学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける（1H）								
15	実技試験（ギター弾き歌い）後期課題の説明 [課題（復習）] 学んだ内容の復習（1H）								
時間外での学修	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】								
受講学生へのメッセージ	ギター（クラシック、フォークどちらでも可）は各自用意してください。学校のギターは学内ののみの練習に貸し出します。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。								

【3T7S218】音楽療法実践 II		音楽総合学科		1年後期		
教員	菅田 文子	1単位	選択	演習	30時間	
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修					
授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるよう、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でコミュニケーション能力を高めることも目的としています。					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業方法	学内の演習と学外における実践。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。					
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。			△	
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。			◎	
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをすることができる。グループ内で共同作業ができる。			◎	
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	-	30	-	-	30
	受講態度	-	-	20	20	40
	発表(グループ発表含む)	10	-	10	10	30
	合 計(点)	10	30	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格がありません。 施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生は最終試験の受験資格がありません。					
I C T 活用	レポートについてのコメントを授業内で行います。					
課題に対するフィードバック						
テキスト						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1：対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する(1H)					
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション2：活動計画 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する(1H)					
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション3：活動の準備 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する(1H)					
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション4：リハーサル [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する(1H)					
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション5：実践 [課題(復習)]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気をつけた点についてふりかえる(1H)					
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレパートリー1 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する(1H)					
7	クリスマスコンサートのレパートリー2 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する(1H)					
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する(1H)					
9	障害者施設に出向いての音楽活動ボランティア1 [課題(復習)]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録					
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [課題(復習)]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成(1H)					
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する(1H)					
12	障害者施設へのボランティア活動2 [課題(復習)]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする(1H)					
13	先週の振り返り、記録の提出 [課題(復習)]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考にする(1H)					
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [課題(復習)]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる(1H)					
15	授業のまとめ、レポート課題について [課題(復習)]学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる(1H)					
時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への
メッセージ

多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。
オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3W5B201】 ウィンドアンサンブルⅠA		音楽総合学科		1年前期		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵・長尾 洪基	2単位	選択	演習	60時間	
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期2回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。					
実務家教員						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。				△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。				○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。				◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができます。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。				○
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	10	50	-	60
	受講態度	-	-	-	10	10
	小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
I C T活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）					
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。					
テキスト	その都度配布					
参考書・教材	楽譜等その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏。 【課題（準備・予習）】シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。（2h～4h）					
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ 定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲（学外演奏用）のまとめ。定期演奏会用楽曲の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。 リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）] 試験指定曲の個人練習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B202】 ウィンドアンサンブルⅠB		音楽総合学科		1年前期			
2単位		選択		演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典						
資格・制限等	W-W/R-W/MTコース必修						
授業内容	ウィンドアンサンブルⅠAで学修した内容を発展させていきます。特に定期演奏会用の各楽曲について、作曲者、その他の代表的作品、ジャンルの特色、構成や特徴、時代背景、音楽用語等について調べ、発表します。また、基礎合奏にて長音階スケールや音程の取り方等を学修します。授業以外に、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期に2回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲を取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。			○		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度		
	実技試験	-	10	50	-		
	受講態度	-	-	-	10		
	小テスト・提出物	10	10	-	10		
合 計(点)		10	20	50	20		
					100		
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲をパートで譜読み。 【課題（復習・発展）】音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の楽曲研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習。学修記録ノートの記入。各個人の基礎力調査。（3h～5h）						
2	基礎力養成合奏 音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 【課題（復習・予習）】音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように】基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）						
3	音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の合奏 音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 【課題（復習・予習）】音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように】学修記録ノートの記入。（2h～4h）						
4	基礎力養成合奏 音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 【課題（復習・予習）】音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように】基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）						
5	音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の合奏 音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 【課題（復習・予習）】音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように】学修記録ノートの記入。（2h～4h）						
6	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように】基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）						
7	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 【課題（復習・予習）】定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。【特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように】学修記録ノートの記入。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように] 基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
9	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように] 学修記録ノートの記入。(2h~4h)
10	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように] 基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
11	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように] 学修記録ノートの記入。(2h~4h)
12	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように] 基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように] 学修記録ノートの記入。(2h~4h)
14	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 [特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように] 基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)
15	前期実技試験指定曲の合奏、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定の個人練習(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。音楽の多角的なとらえ方を学ぶために「答えはひとつだけではない」という柔軟な発想を持ってください。出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S203】 ウィンドアンサンブル I C		音楽総合学科		1年後期			
2単位		選択		演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期2回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。			○		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができます。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	○・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	実技試験	-	10	50	-	60	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	小テスト・提出物	10	10	-	10	30	
合 計(点)		10	20	50	20	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
I C T活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 【課題（復習・予習）】初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特に他のパートとの調和を考えながら）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にテンポの変化にも対応できるように）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特に他のパートとの調和を考えながら）。 指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特にハーモニーや音程の正確性を高めながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に表現記号、ダイナミクスの変化に注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲（全曲）の合奏。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲（全曲）について、特に時代背景や表現記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所の反復練習。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）] 試験指定曲の個人練習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「一つだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自己覚と責任の心を持って授業に取り組んでください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S204】 ウィンドアンサンブルⅠ D		音楽総合学科		1年後期					
2単位		選択		演習					
教員	鈴木 孝育・服部 篤典								
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修								
授業内容	ウィンドアンサンブルⅠ Cで学修した内容を発展させていきます。特に定期演奏会用の各楽曲について、作曲者、その他の代表的作品、ジャンルの特色、構成や特徴、時代背景、音楽用語等について調べ、発表します。また、基礎合奏にて短音階スケールや音程の取り方等を学修します。授業以外に、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期に2回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。								
実務家教員									
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。								
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、クラシック、ジャズ、ポピュラー等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。				△			
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。				○			
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。				◎			
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。				○			
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)			
	実技試験	-	10	50	-	60			
	受講態度	-	-	-	10	10			
	小テスト・提出物	10	10	-	10	30			
	合 計(点)	10	20	50	20	100			
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。								
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）								
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。								
テキスト	その都度配布								
参考書・教材	楽譜等その都度配布								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
2	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
3	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
4	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
5	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
6	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								
7	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンボ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
8	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定の個人練習（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：4.5～7.5時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。音楽の多角的なとらえ方を学ぶために「答えはひとつだけではない」という柔軟な発想を持ってください。出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B109】吹奏楽理論 I		音楽総合学科	1年前期			
2単位		選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基					
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修					
授業内容	一般的な音楽理論を含め、吹奏楽を指導、演奏する上で専攻楽器以外の各楽器の特徴を学び、移調を理解します。					
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年					
授業方法	音楽理論を含め吹奏楽で必要とされる理論を講義にて学びます。質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。					
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する			◎	
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること			△	
	技能	移調を即座にできること			○	
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	10	20	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	50	10	20	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。					
テキスト	なし					
参考書・教材	その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス・授業の内容 [課題(予習)]音楽基礎知識の予習(4h)					
2	楽譜・音符について [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
3	音程1 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
4	音程2 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
5	音程3 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
6	音階 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
7	近親調 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
8	楽語・楽器論木管楽器1 フルートについて [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
9	楽語・楽器論木管楽器2 オーボエ・ファゴットについて [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
10	楽語・楽器論木管楽器3 クラリネットについて [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
11	楽語・楽器論木管楽器4 サクソフォンについて [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
12	移調 基本編 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
13	移調 応用編1 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
14	移調 応用編2 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
15	前期まとめ・筆記試験対策 [課題(復習)]本時学修内容の復習(4h)					
時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。 【この科目で求める望ましい学修外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	移調等の問題によって混乱しがちになりますが、たくさんの練習問題をこなしながら確実に理解していきましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【3W5S110】吹奏楽理論 II		音楽総合学科	1年後期			
教員	長尾 洪基		2単位	選択	講義 30時間	
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修					
授業内容	前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。					
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年					
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。					
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。				◎
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。				○
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。				○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	40	20	-	-	60
	小テスト	15	5	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	55	25	-	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。					
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円) ISBN:978-4276100008 「音楽理論 I」履修者は購入済					
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	音階（6）移調と転調① [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
2	音階（7）移調と転調② [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
3	音階（8）調の判定① [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
4	音階（9）調の判定② [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
5	音階（10）調の判定③、その他の音階 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
6	和音（1）三和音と七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
7	和音（2）三和音の種類 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
8	和音（3）和音の基本形および転回形 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
9	和音（4）音階各音上の三和音、七の和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
10	和音（5）和音の機能、主要三和音と副三和音 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
11	速さ・強さに関する表示法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
12	曲想・奏法に関する表示法（1）曲想に関する用語（発想標語） [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
13	曲想・奏法に関する表示法（2）奏法を指示する用語・記号 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
14	曲想に関する表示法（3）裝飾音・裝飾記号、略記法 [課題（復習）] 学修した内容の復習・宿題（4h）					
15	まとめ [課題（復習・準備）] 学修した内容の復習・試験対策（4h）					
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していくよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【3S8S217】スコアリーディング		音楽総合学科		1年後期			
2単位		選択		講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
授業内容	吹奏楽を指導・演奏する為に必要な楽譜の読み取り方や内容解釈の方法を学び、実際の演奏への応用を研究します。						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業方法	楽曲分析・和声・楽器法など、楽曲内容を読み取るために必要な知識や技術を課題や演習にて習得し、実際に吹奏楽楽曲（の総譜およびコンデンススコア）を用いてスコアリーディング実習・発表を行います。						
到達目標	知識・理解	楽曲分析、和声、楽器法などの知識を習得する			◎		
	思考・判断・表現	総譜を総合的に読み進める力を付ける			○		
	技能	読み取った内容を演奏や指導に活かすことができる			△		
	関心・意欲・態度	多様な音楽に関心を持ち積極的に取り込もうとすることができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	試験	50	10	10	-	70	
	受講態度	-	10	-	20	30	
	合 計(点)	50	20	10	20	100	
評価の特記事項							
I C T活用							
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の内容 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)						
2	楽曲の形式について1 [課題（復習）]本時学修内容（1部形式、2部形式、3部形式など）の復習(4h)						
3	楽曲の形式について2 [課題（復習）]本時学修内容（複合形式、ソナタ形式など）の復習(4h)						
4	和声基礎1 [課題（復習）]本時学修内容（基本形3和音の配置）の復習(4h)						
5	和声基礎2 [課題（復習）]本時学修内容（基本形3和音の連結）の復習(4h)						
6	和声基礎3 [課題（復習）]本時学修内容（非和声音）の復習(4h)						
7	楽器法（オーケストレーション）1 [課題（復習）]本時学修内容（各楽器の特性および記譜）の復習(4h)						
8	楽器法（オーケストレーション）2 [課題（復習）]本時学修内容（スコアの読譜）の復習(4h)						
9	楽曲分析1 [課題（復習）]本時学修内容（楽曲の形式観）の復習(4h)						
10	楽曲分析2 [課題（復習）]本時学修内容（楽曲各部分の和声解析）の復習(4h)						
11	楽曲分析3 [課題（復習）]本時学修内容（読譜し楽曲の解釈）の復習(4h)						
12	スコアリーディング1 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜1）の復習(4h)						
13	スコアリーディング2 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜2）の復習(4h)						
14	スコアリーディング3 [課題（復習）]本時学修内容（課題曲の読譜3及び演奏解釈への応用）の復習(4h)						
15	スコアリーディング4・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容（1回～14回までの学習内容）の復習(4h)						
時間外での学修	学修内容が多岐にわたります。その一つ一つを丁寧に復習し、総合的な力にしていきましょう。 吹奏楽だけではなく様々なジャンルの優れた音楽を積極的に聞きましょう。【この授業で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	楽曲解釈を深めより質の高い演奏を目指す為に、音楽内容を正確に読み取る力をつけましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3R6B301】リペア基礎(木管) I		音楽総合学科		1年前期			
1単位		必修		実技	45時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取扱い方を学んでいきます。						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なリペア技術、基礎的な構造知識が身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。				△	
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理個所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。				◎	
	技能	各木管楽器の修理個所に的確な技能を持って対応する。				◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することができる。				△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	10	-	-	-	10	
	実技試験	-	30	50	-	80	
	受講態度	-	-	-	10	10	
合 計(点)		10	30	50	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [課題(復習)]工具の使い方、名称の復習 (1h)						
2	工具の加工、商品知識 [課題(復習)]加工技術の復習 (1h)						
3	クラリネットの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立 (1h)						
4	クラリネットの基礎実習① 連絡バランス調整及び、タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換 (1h)						
5	フルート初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立 (1h)						
6	フルートの基礎実習① タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換 (1h)						
7	フルートの基礎実習② タンポ交換、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換 (1h)						
8	サクソフォンの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についても説明を行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立 (1h)						
9	サクソフォンの基礎実習① タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換 (1h)						
10	サクソフォンの基礎実習② タンポ交換手順、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換 (1h)						
11	クラリネットの基礎実習② ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [課題(復習)]学んだジョイントコルク交換 (1h)						
12	クラリネットの基礎実習③ 全体調整（バネ圧、開き等の確認） [課題(復習)]学んだバランス調整 (1h)						
13	フルートの基礎実習③ ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [課題(復習)]学んだヘッドコルク交換、反射板位置 (1h)						
14	フルートの基礎実習④ 全体調整（バネ圧、開き、アソビの取り方等） [課題(復習)]学んだバランス調整 (1h)						
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						

受講学生への
メッセージ

全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。
分からぬ事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。
板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることができますので活用して下さい。
オフィスアワーは、毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。

【3R6S302】リペア基礎(木管) II		音楽総合学科		1年後期			
1単位		必修		実技	45時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリントなどを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修し問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキイシステムの違い（特別講義で解説します）を理解する。				△	
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる。				◎	
	技能	各木管楽器のリペア箇所に適切な技能を持って対応する。				◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。				△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
		合 計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	サクソフォンの基礎実習③ ネックコルク交換 [課題(復習)]学んだネックコルク交換 (1h)						
2	サクソフォンの基礎実習④ 全体調整（テーブルキイ）タンポ交換 [課題(復習)]学んだバランス調整 (1h)						
3	クラリネットの総合実習① タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
4	クラリネットの総合実習② タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
5	フルートの総合実習① タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
6	フルートの総合実習② タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
7	サクソフォンの総合実習① タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
8	サクソフォンの総合実習② タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整 (1h)						
9	クラリネットの総合実習③ 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
10	クラリネットの総合実習④ 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
11	フルートの総合実習③ 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
12	フルートの総合実習④ 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
13	サクソフォンの総合実習③ 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
14	サクソフォンの総合実習④ 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [課題(復習)]総合的な復習 (1h)						
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしつかり身につけ2年次への準備をしよう。分からぬことは1年次で解決すること。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限目16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6B303】リペア基礎(金管) I		音楽総合学科		1年前期			
3単位		必修		実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱いを学んでいきます。						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年 鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身につく授業をしていきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することができる。				△	
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断する。				◎	
	技能	各金管楽器の修理箇所に的確な技能を持って対応する。				◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心、興味を持ち、自らが率先して学修することができる。				△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	10	-	-	-	10	
	実技試験	-	30	50	-	80	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	10	30	50	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具製作 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
2	トランペットの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
3	トランペット基礎実習① ピストン調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
4	トランペット基礎実習② 抜き差し管調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
5	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
6	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
7	ホルンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具の説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
8	ホルンの基礎実習① ロータリー糸（紐）交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
9	ホルンの基礎実習② ロータリー調整、使用工具説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
10	トロンボーンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具等説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
11	トロンボーンの基礎実習① ウォーターキイ分解組み立て、コルク交換、スライドトップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
12	トロンボーンの基礎実習② スライド曲がり修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
13	ハンダ付け基礎実習① ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
14	ハンダ付け基礎実習② ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
15	前期金管楽器基礎復習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]						

受講学生への
メッセージ

全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。
分からぬ事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。
板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることができますので活用して下さい。
オフィスアワーは、毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。

【3R6S304】リペア基礎(金管) II		音楽総合学科		1年後期			
3単位		必修		実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	前期で学んだ金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の基礎的な実習をさらに拡大して、リペアを行うことによって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等の使用方法を理解したと思いますが、より安全に作業を行うにはどうしたら良いかを考えながら学んでください。						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年 鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布物、DVD、各社カタログ等を探り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して、総合的なリペア技術を学修します。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違いが理解できる。（特別講義等で解説します。）					
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考えて作業ができる。					
	技能	各楽器のリペア箇所に、適切な技能を持って対処ができる。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手法など興味を持って、自らが率先して学修ができる。					
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	10	-	-	-	10	
	実技試験	-	30	50	-	80	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	10	30	50	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	トランペット基礎実習③ 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
2	トランペット基礎実習③ 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
3	トランペット基礎実習④ ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
4	トランペット基礎実習④ ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
5	ホルンの基礎実習③ ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
6	ホルンの基礎実習③ ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
7	ホルンの基礎実習④ レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
8	ホルンの基礎実習④ レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
9	トロンボーンの基礎実習③ スライド調整、ウォーターキイコルク交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
10	トロンボーンの基礎実習③ スライド調整・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
11	金管楽器基礎実習① マウスピース固定・マウスピースシャンク変形修正・抜き差し管固定修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
12	トランペットの基礎実習⑤ ピストン固定修正・ハンダ付け 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
13	ホルンの基礎実習⑤ ロータリー固定修正・ロータリー糸（紐）交換・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
14	トロンボーンの基礎実習④ スライド調整・ウォーターキイコルク交換・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
15	ホルンの基礎実習⑥ ロータリー調整・ロータリー糸（紐）交換・レバー位置修正・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかりと身につけ2年次への準備をしよう。分からぬことは1年次で解決すること。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限目16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6B305】リペア基礎(総合) I		音楽総合学科		1年前期			
3単位		必修		実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能を習得する。 正確性、効率性、商品知識や接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に付け問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。				◎	
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。				△	
	技能	各管楽器の修理箇所に的確な技能を持って対応する。				◎	
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。				△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	50	10	-	-	60	
	実技試験	-	-	30	-	30	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	50	10	30	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具の加工① ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け (3h)						
2	工具の加工② ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け (3h)						
3	管楽器基礎知識① メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い方法 (3h)						
4	管楽器基礎知識① メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い (3h)						
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容 (3h)						
6	管楽器製造方法① 使用材料や加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の材料、加工法 (3h)						
7	管楽器製造方法② 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の表面処理 (3h)						
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容 (3h)						
9	管楽器製造方法③ 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の製造工程 (3h)						
10	管楽器以外の楽器類 [課題(復習)]学んだ各種楽器の種類 (3h)						
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容 (3h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだ特別講義内容 (3h)						
13	楽器店での管楽器リペア① 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ現場での修理 (3h)						
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア② 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ楽器店における修理 (3h)						
15	前期総合基礎演習 [課題(復習)]学んだ修理 (3h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。 また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。 特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からぬことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 オフィスマスターは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3R6S306】リペア基礎(総合) II		音楽総合学科		1年後期			
3単位		必修		実技	120時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R·W/Rコース必修						
授業内容	<p>木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学修する。</p> <p>安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身につける、基本的な知識や技能の習得。</p> <p>正確性、効率性、商品知識、接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。</p> <p>実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講話を行っていきます。</p>						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	<p>全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等を身につけ、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。</p>						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事ができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。					
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することができる。					
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度		
	筆記試験	50	10	-	-		
	実技試験	-	-	30	-		
	受講態度	-	-	-	10		
	合 計(点)	50	10	30	10		
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
I C T 活用	ICTを活用した自主学習支援(学生ポータルなど)						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	管楽器専門知識① [課題(復習)]学んだ専門知識 (3h)						
2	管楽器専門知識② [課題(復習)]学んだ専門知識 (3h)						
3	管楽器専門知識③ [課題(復習)]学んだ専門知識 (3h)						
4	主要楽器メーカー講習① [課題(復習)]学んだメーカー講習内容 (3h)						
5	管楽器専門知識④ [課題(復習)]学んだ専門知識 (3h)						
6	管楽器専門知識⑤ [課題(復習)]学んだ専門知識 (3h)						
7	特殊工具を使用するリペア [課題(復習)]学んだ特殊工具使用方法 (3h)						
8	総合確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容 (3h)						
9	楽器店での管楽器リペア② [課題(復習)]学んだリペア業務の内容 (3h)						
10	楽器店での管楽器リペア③ [課題(復習)]学んだ店頭でのリペア業務 (3h)						
11	楽器店での管楽器リペア④ [課題(復習)]学んだ学校販売でのリペア業務 (3h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだメーカー特別講義内容 (3h)						
13	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理 (3h)						
14	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理 (3h)						
15	後期総合基礎復習 [課題(復習)]時間短縮及び苦手修理 (3h)						
時間外での学修	繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]						
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかりと身につけ、2年次への準備をしっかりと下さい。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【3W5B213】演奏会研究 I		音楽総合学科		1年前期					
1単位		必修		演習					
教員	鈴木 孝育								
資格・制限等	Wコース必修								
授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。前後期で数公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総括的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドバイスできる力を養成します。								
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年								
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行ないます。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。								
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べ、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、分野別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。			◎				
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。			◎				
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。			○				
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)		
	レポート提出・発表	30	30	-	20	80			
	小テスト	10	10	-	-	20			
	合 計(点)	40	40	-	20	100			
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。								
I C T活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）								
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表の確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、調査表にはコメントを返します。								
テキスト	なし								
参考書・教材	その都度配布								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	ガイダンス、この授業で学ぶこと。研究の仕方、授業内容、到達目標等。 【課題（準備）】シラバスの熟読。演奏会についての考察課題。演奏会研究冒頭調査。（1～2h）								
2	演奏会についての考察（第1回授業振り返りと発展） プレゼンテーション資料作成の仕方。発表の仕方。 「コンサートホール研究」発表についての解説および、調査・発表対象の選択。 【課題（準備）】「世界のホール研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
3	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
4	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
5	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備、資料作成。（3～4h）								
6	「コンサートホール研究」発表振り返り調査および、「コンサートホール研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備、資料作成。 【課題（復習・準備）】「コンサートホール研究」についての確認テスト復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
7	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
8	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
9	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表についての説明 【課題（復習・準備）】本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。（1～2h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
10	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備、資料作成。 [課題（復習・準備）] 「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
11	第26回ウインドアンサンブル定期演奏会について 意義・目的・プログラムについて [課題（復習・準備）] 第26回定期演奏会「意義・目的・プログラムについて」に関する復習と考察。 「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
12	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。(1~2h)
13	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。(1~2h)
14	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション③及び全体の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。全体のまとめ。(2~3h)
15	「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表振り返り調査および、「自分の企画する演奏会プログラム研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。前期全体のまとめを学生ポータルで行う。 [課題（復習・準備）] 「自分の企画する演奏会プログラム研究」についての確認テスト復習。前期全体の振返り。(2~3h)
時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより自身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：27~42時間]
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5S214】演奏会研究II		音楽総合学科		1年後期					
1単位		必修		演習					
教員	鈴木 孝育								
資格・制限等	Wコース必修								
授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。前後期で数公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総括的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドバイスできる力を養成します。								
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年								
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行ないます。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。								
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べ、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、テーマ別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。			◎				
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。			◎				
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。			○				
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)		
	レポート提出・発表	30	30	-	20	80			
	小テスト	10	10	-	-	20			
	合 計(点)	40	40	-	20	100			
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。								
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）								
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表の確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、調査表にはコメントを返します。								
テキスト	なし								
参考書・教材	その都度配布								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	授業日程の説明、選択演奏会研究・世界の指揮者研究発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 第26回ウインドアンサンブル定期演奏会に関する考察 [課題（準備・復習）] 第26回定期演奏会に関する考察のまとめ、課題。「世界の指揮者研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
2	第26回ウインドアンサンブル定期演奏会について①情宣活動について（チラシ・案内・広報など） [課題（復習・準備）] 第26回定期演奏会「情宣活動」に関する復習、考察。「世界の指揮者研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
3	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
4	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
5	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
6	「世界の指揮者研究」発表振り返り調査および、「世界の指揮者研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題（復習・準備）] 「世界の指揮者研究」についての確認テスト復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
7	第26回ウインドアンサンブル定期演奏会について②プログラム・演出について（タイムテーブル・ロビー・コンサート・舞台演出など） [課題（復習・準備）] 第26回定期演奏会「プログラム・演出について」に関する復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。（3～4h）								
8	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								
9	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考しながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）] 本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）								

内容	
実施回	授業内容・目標
10	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「選択演奏会研究」発表についての説明。調査対象演奏会の報告。 [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「選択演奏会研究」発表準備、資料作成。(3~4h)
11	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題（復習・準備）]「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
12	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1~2h)
13	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。(1~2h)
14	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション③及び全体の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。(2~3h)
15	「選択演奏会研究」発表振り返り調査および、「選択演奏会研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。後期全体のまとめを学生ポータルで行う。 [課題（復習・準備）]「選択演奏会研究」についての確認テスト復習。後期全体の振り返り。(2~3h)
時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより自身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各テスト、調査、課題については期限を厳守すること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：31~46時間】
受講学生へのメッセージ	鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3R6B225】 楽器奏法 I		音楽総合学科		1年前期		
教員	佐溝 佳奈	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	R·W/Rコース必修					
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
実務家教員						
授業方法	各楽器に分かれ5~6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△	
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△	
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎	
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行う。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
2	楽器1レッスン1: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
3	楽器1レッスン2: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
4	楽器1レッスン3: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
5	楽器1レッスン4: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)] 次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
6	楽器2レッスン1: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
7	楽器2レッスン2: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
8	楽器2レッスン3: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
9	楽器2レッスン4: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)] 次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
10	楽器3レッスン1: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
11	楽器3レッスン2: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
12	楽器3レッスン3: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
13	楽器3レッスン4: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の復習(1~2h)					
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)] レッスン楽器の練習(1~2h)					

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間]
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスマナーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6S226】 楽器奏法Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
教員	佐溝 佳奈	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	R·W/Rコース必修					
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
実務家教員						
授業方法	楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△	
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△	
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎	
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行う。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
2	楽器1レッスン1: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
3	楽器1レッスン2: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
4	楽器1レッスン3: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
5	楽器1レッスン4: グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)] 次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
6	楽器2レッスン1: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
7	楽器2レッスン2: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
8	楽器2レッスン3: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
9	楽器2レッスン4: グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)] 次回レッスン楽器の基礎知識(1~2h)					
10	楽器3レッスン1: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
11	楽器3レッスン2: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出しお、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
12	楽器3レッスン3: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
13	楽器3レッスン4: グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)] レッスン楽器の復習(1~2h)					
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)] レッスン楽器の練習(1~2h)					
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)] レッスン楽器の練習(1~2h)					

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6B229】 楽器研究 I		音楽総合学科		1年前期		
教員	木下 紘治郎	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	W・R・W/R・W/MTコース必修					
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。 ・お客様に信頼され、支持され、地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。 					
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年					
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、CD等を使用します。一方的で受け身な授業にならないように受講学生の発言、発表を求めることがあります。例えば高校の吹奏楽活動等で担当した楽器に関する情報（担当動機、使用メーカー等）を発表してもらい全員で共有します。					
到達目標	知識・理解	管打楽器の歴史、発音原理、構造、材質等の基礎知識、各楽器ごとの特徴を理解できる。日本のスクールバンドで使用される国内外のメーカーを知り、その売れ筋商品を知ることができる。				◎
	思考・判断・表現	営業活動や楽器指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることができる。レポート（報告書）作成の基本を修得できる。				○
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができる。				△
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	10	-	-	90
	レポート	3	5	-	2	10
	合 計(点)	83	15	-	2	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト	『管楽器価格一覧表2021年度版』株式会社ミュージックトレード社(1,100円) 『打楽器価格一覧表2021年度版』株式会社ミュージックトレード社(990円)					
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。 管・打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 「この授業で学ぶこと」ブレイング・セールス・エンジニアについて。「音楽産業と楽器産業について」（楽器産業の業態、そこで働くこととは） [課題（復習）] 学んだことの復習。ブレイング・セールス・エンジニアについて理解を深めること。 (1h)					
2	管楽器の基礎知識(1)歴史、発音原理による分類、楽器の分類と種類、構造、管体材料について。 [課題（復習）] 学んだことの復習。発音原理は実際にマウスピース等で吹いてみること。 (1h)					
3	管楽器の基礎知識(2)バルブとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズム、調性について。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。各自の専門楽器以外は学校備品、学生同士の楽器で確認すること。次回から楽器別に行う。事前にカタログ、ネット検索等で研究すること。DVD、CD、Y o u T u b e等の音源で楽器本体、演奏法等を確認すること。 (フルートから始める) (1h)					
4	フルート 各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。 (1h)					
5	クラリネット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、音域の名称と特徴、管体材料、リード・リガチャー・マウスピースの3点セット、メーカーについて。 [課題(復習／予習)] 学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。 (1h)					
6	サクソフォン 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック（ボーカル）リード、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだ事の復習と予習(1h) ※提出課題「アルトサクソフォンの各メーカー対比表の作成（ヤマハ、ヤナギサワ、セルマーの3社とする）。提出締め切り 6月25日（金）					
7	オーボエ 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること(1h)					
8	ファゴット（バースーン） 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、ボーカル、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること (1h)					
9	トランペット 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、トリガーベル、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認する事 (1h)					
10	ホルン 各国での名称、歴史、調性による分類、管体材料、2つの業界スタンダードタイプによる分類、デタッチャブル、グショットップ、ベル、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること (1h) (特にフルダブルの構造)					
11	トロンボーン 各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、ロータリーバルブの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習／予習)] 学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。(1h) (特にロータリーバルブの種類を確認すること)					
12	ユーフォニアム&チューバ 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、管の巻き方、コンペニセイティングシステム、メーカーについて。 [課題（復習／予習）] 学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。 (特にコンペニセイティングシステムについて) (1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
13	サクソルン族 歴史、種類、コルネット、アルトホルン、バリトン。メーカーについて。イギリス式金管バンド編成について。 【課題（復習／予習）】学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。（1h） （金管バンドに興味を持つこと）
14	マーチングプラス、歴史、特徴、種類、コンバーチブルモデル、メーカーについて。 【課題（復習）】学んだことの復習。DVD等で編成と実際の活用状況を確認すること。（1h）
15	前期のまとめ。夏期休暇課題提示「①吹奏楽、マーチングコンクール、コンテスト視察。②楽器店訪問」 【課題（復習）】（1h）※来週前期定期試験（筆記試験）を実施する。準備を怠らないように。
時間外での学修	最新情報を入手する習慣をつけましょう。カタログ、専門誌、インターネットなどで研究し、楽器本体は学生同士で研究しあいましょう。学生時代の特権です。【この科目での望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識は楽器業界で仕事する上で必ず活かされます。全ての楽器のオールマイティーな知識が求められます。オフィスアワー：質問等は授業前は非常勤講師控室、授業後は教室で対応します。

【3R6S230】 楽器研究Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
1単位		選択		演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	W・R・W/R・W/(MT) コース必修						
授業内容	<p>前期に引き続き楽器知識について学びます。打楽器類（コンサート用、マーチング用、音板打楽器）和楽器（太鼓類、笛類、弦楽器類）、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、教育機器）楽器店で扱われる楽器（鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、管打楽器関連商品）の知識、チューナー、メトロノームのスクールバンドに於ける活用研究。関連知識として吹奏楽の歴史を学びます。吹奏楽等で使用される管楽器・打楽器以外の楽器群は楽器店に勤務し担当する可能性の大きい学校販売担当者、店舗担当者に求められる大切な知識です。</p>						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業方法	<p>講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、CDを活用します。一方的で受け身な授業にならないように、受講学生に発言、発表を求めることがあります。例えば高校で担当した楽器についての情報（担当動機、使用メーカー等）を発表し全員で共有します。</p>						
到達目標	知識・理解	打楽器、和楽器、教育楽器、楽器店で販売している楽器等についての知識を知ることができる。特に、教育楽器は教育上の特性等、学校教育との関連を理解できる。				◎	
	思考・判断・表現	営業活動、楽器指導で十分な理解を得られる伝え方を思考し、工夫し表現できる。レポート（報告書）作成の基本を修得できる。				○	
	関心・意欲・態度	楽器本体及び関連商品の幅広い知識と情報に敏感であり、よりプロフェッショナルな顧客対応法を研究することができます。				△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
	筆記試験	75	5	-	-	80	
	レポート	5	10	-	5	20	
	合 計(点)	80	15	-	5	100	
評価の特記事項							
ICT活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。						
テキスト							
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。打楽器カタログ、管楽器・打楽器価格一覧表2021年度版を使用します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>打楽器(1) コンサート打楽器の分類 ①ティンパニ(各国での名称、歴史、種類、構造、サイズ、セッティング、チューニングインジケーター、メーカー)について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体(学校備品)で確認しておくこと。コンサート打楽器をカタログで確認しておくこと。各楽器に関しては前期同様授業前にカタログ等で予習しておくこと(1h)</p>						
2	<p>打楽器(2) スネアドラム、バスドラム、シンバル、チャイム他(各国での名称、歴史、種類、サイズ、チューニング、構造、材質、メーカー)について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習。(1h)</p>						
3	<p>打楽器(3) 音板打楽器(概論、種類、各部の名称、材質、温度・湿度とピッチの関係、取り扱いの注意点、メーカー)について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(1h)</p>						
4	<p>打楽器(4) マーチングバーカッション(概論、種類、構造、編成、チューニング、アクセサリー、メーカー)について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習。楽器本体、カタログで確認すること。(楽器本体は学校備品あり) DVD等で確認すること。(1h)</p>						
5	<p>和楽器(1) 邦楽と和楽器について、歴史、種類と分類、奏法、各流派、(1)和太鼓 (2)管楽器類(尺八)について。 [課題(復習)]学んだことの復習。DVD等で確認すること。(1h)</p>						
6	<p>和楽器(2) 管楽器類：篠笛、童笛、能管、笙、簞篥「雅楽について」 [課題(復習)]学んだことの復習。DVD等で確認すること。(1h)</p>						
7	<p>和楽器(3) 弦楽器(三味線、琴と箏)について。 [課題(復習)]学んだことの復習。和楽器の知識をまとめておくこと(1h)</p>						
8	<p>教育楽器(1) リコーダー(各国での名称、歴史、種類、材質、バロック式とジャーマン式、教育的特性、生涯学習とリコーダー、奏法、メーカー)について。 [課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(1h)</p>						
9	<p>教育楽器(2) 鍵盤ハーモニカ(歴史、種類(鍵盤数)、教育的特性、生涯学習と鍵盤ハーモニカ、メーカー(独自の商品名)について。 [課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(1h)</p>						
10	<p>教育機器(種類、電子式指導用オルガン・ピアノの教育的特性と機能)について。メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。総合楽器店で扱われる楽器類をカタログ等で確認しておくこと。(1h)</p>						
11	<p>総合楽器店で扱われる楽器類(鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、楽器関連商品)について、メーカーについて。 [課題(復習)]学んだことの復習。楽器本体、陳列方法を楽器店で確認することを勧める。(1h)</p>						
12	<p>楽器関連商品(チューナーとメトロノームの吹奏楽活動での効果的な活用研究)について。 [課題(復習)]学んだことの復習。自身の吹奏楽活動での効果的な活用法を考える事(1h)</p>						
13	<p>日本における吹奏楽の歴史(日本の吹奏楽の始まりから現在、そして将来を展望する) [課題(復習/予習)]学んだことの復習及び後期実施資料を読み直し確認すること(1h)</p>						

実施回	内容
	授業内容・目標
14	後期のまとめ。後期授業内容を振り返る。 【課題（復習）】学んだことの復習。(1h) 後期実施全資料を持参すること。返却された夏期休暇課題を読み直し次回持参すること。
15	夏期休暇課題のまとめ。コンクール視察、楽器店訪問で気付いた事と学んだこと。新しい視点で観察した現場での感想、情報を整理し、これからに繋げる。 【課題（復習）】学んだことの復習。(1h) 来週、後期定期試験（筆記試験）を実施する。準備を怠らないこと。
時間外での学修	楽器店を訪問して商品の展示方法等を観察したり、新しい情報を入手しましょう。必ず客として訪問してください。お店の方々と仲良くなる事で、多くの知識、情報を得ることができます。学ばせていただく姿勢が大切です。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	楽器のオールマイティーを目指しましょう。興味と関心、好奇心が最大の資質です。カタログや専門誌、インターネット等で確認し、知識を確実にしましょう。学校備品、友人の楽器及びコンクール、コンサート等で実際に楽器を観察することを勧めます。オフィスアワー：質問等は授業前は非常勤講師控室、授業後は教室で対応します。

【3W5B219】専攻楽器 I		音楽総合学科		1年前期		
教員	服部 篤典	1単位	必修	演習	30時間	
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修					
授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。楽曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かで個性を大切にした演奏を目指します。					
実務家教員	オーケストラ25年					
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、その後個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。レッスン中に不明瞭な点などがあれば、必ず質問をし時間内に解決してください。最終週に演奏会形式の発表を行います。伴奏は無じとします。					
到達目標	思考・判断・表現	楽曲の曲想を把握し、個性を大切にした演奏ができる。				<input type="radio"/>
	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる。				<input checked="" type="radio"/>
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップを目指すことができる。				<input type="radio"/>
	備考	<input checked="" type="radio"/> ・ <input type="radio"/> ・ <input type="triangle"/> は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	-	10	50	-	60
	受講態度	-	10	10	20	40
	合 計(点)	-	20	60	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘された箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。					
テキスト						
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。					
実施回	授業内容・目標					内容
1	ガイダンス 授業の進め方、楽曲の決め方、練習法、レッスンに臨む姿勢などを詳細に説明。 「課題」復習・予習：配布プリントを熟読した上で楽曲を調べる。(1h)					
2	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導。 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：楽曲前半の正確な音に留意して練習。(1h)					
3	個人レッスン 楽曲前半の正確な音を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の正確な音に留意して練習。(1h)					
4	個人レッスン 楽曲後半の正確な音を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半のリズムに留意して練習。(1h)					
5	個人レッスン 楽曲前半のリズムを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半のリズムに留意して練習。(1h)					
6	個人レッスン 楽曲後半のリズムを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現記号に留意して練習。(1h)					
7	個人レッスン 楽曲前半の表現記号を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現記号に留意して練習。(1h)					
8	個人レッスン 楽曲後半の表現記号を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲の正確な音、リズム、テンポ、表現記号に留意して練習。(1h)					
9	個人レッスン 楽曲全曲の正確な音、リズム、テンポ、表現記号のチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現力豊かな演奏を目指して練習。(1h)					
10	個人レッスン 楽曲前半の表現力をを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現力豊かな演奏を目指して練習。(1h)					
11	個人レッスン 楽曲後半の表現力をを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲の表現力豊かな演奏を目指して練習。(1h)					
12	個人レッスン 楽曲全曲の表現力をを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲で前期指摘を受けた箇所の練習。(1h)					

実施回	内容
	授業内容・目標
13	個人レッスン 楽曲全曲を通して個々の気になる箇所をチェック。(仕上げ1) 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所を練習。(2h)
14	個人レッスン 楽曲全曲を通して前週の個別に出した指摘をチェック。(仕上げ2) 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所を中心に、次週発表に向けて仕上げ練習。(1h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表。 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を中心に練習。(1h)
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：27時間】
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘を受けた箇所は必ず復習し、不明な点等がある場合は必ず質問して、その都度解決するよう心掛けてください。オフィスアワーは水曜日5限、木曜日4限

【3W5S220】専攻楽器Ⅱ		音楽総合学科		1年後期					
1単位		選択		演習					
教員	服部 篤典								
資格・制限等	W・W/R・W/(MT) コース必修								
授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。楽曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かで個性を大切にした演奏を目指します。前期より難易度の高い楽曲を選びます。								
実務家教員	オーケストラ25年								
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、その後個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。レッスン中に不明瞭な点などがあれば、必ず質問をして時間内に解決してください。最終週には演奏会形式の発表を行います。原則として伴奏有りとします。(無伴奏曲の場合を除く)								
到達目標	思考・判断・表現	楽曲の曲想を把握し、個性を大切にした演奏ができる。			<input type="radio"/>				
	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる。			<input checked="" type="radio"/>				
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップを目指すことができる。			<input type="radio"/>				
	備考	<input checked="" type="radio"/> ・ <input type="radio"/> ・ <input type="triangle"/> は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度				
	実技試験	-	10	50	-				
	受講態度	-	10	10	20				
	合 計(点)	-	20	60	20				
評価の特記事項									
I C T活用									
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘された箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。								
テキスト									
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。								
内容									
実施回	授業内容・目標								
1	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導。 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：楽曲前半の正確な音に留意して練習。(1h)								
2	個人レッスン 楽曲前半の正確な音を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の正確な音に留意して練習。(1h)								
3	個人レッスン 楽曲後半の正確な音を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半のリズムに留意して練習。(1h)								
4	個人レッスン 楽曲前半のリズムを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半のリズムに留意して練習。(1h)								
5	個人レッスン 楽曲後半のリズムを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現記号に留意して練習。(1h)								
6	個人レッスン 楽曲前半の表現記号を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現記号に留意して練習。(1h)								
7	個人レッスン 楽曲後半の表現記号を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲の正確な音、リズム、テンポ、表現記号に留意して練習。(1h)								
8	個人レッスン 楽曲全曲の正確な音、リズム、テンポ、表現記号を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て練習。(1h)								
9	個人レッスン 伴奏合わせを行い感覚を掴む。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現力豊かな演奏を目指し練習。(1h)								
10	個人レッスン 楽曲前半の表現力をを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現力豊かな演奏を目指し練習。(1h)								
11	個人レッスン 楽曲後半の表現力をを中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲の表現力豊かな演奏を目指し練習。(1h)								

内容	
実施回	授業内容・目標
12	個人レッスン 楽曲全曲の表現力を中心にチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て練習。(1h)
13	個人レッスン 伴奏合わせを行い最終調整。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲を通して不得手な箇所の練習。(1h)
14	個人レッスン 楽曲全曲を通して個々の気になる箇所をチェック。 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所を中心に、次週発表に向けて仕上げ練習。(1h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表。 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を中心に練習。(1h)
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：28時間】
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘を受けた箇所は必ず復習し、不明な点等がある場合は必ず質問して、その都度解決するよう心掛けてください。オフィスアワーは水曜日5限、木曜日4限。